

### 3.2 社会的状況

#### 3.2.1 人口及び産業の状況

##### 1) 人口

##### (1) 集落人口と世帯数

屋久島町における集落別人口と世帯数の状況は、表 3.2-1 に示すとおりである。令和 3 年 3 月 31 日現在における屋久島町の人口は 11,926 人、世帯数は 6,451 世帯であり、対象事業実施区域が位置する小瀬田集落の人口は 402 人、世帯数は 214 世帯となっている。

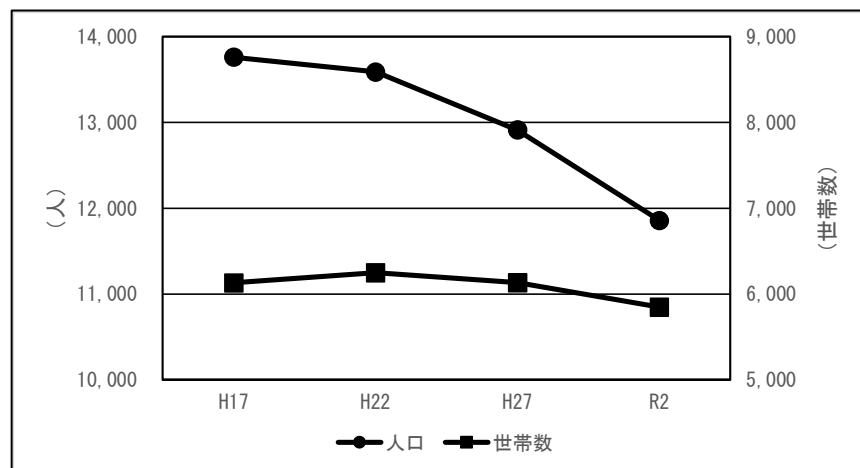
表 3.2-1 屋久島町における集落別人口・世帯数の状況

| 集落名 | 世帯数   | 人口    | 集落名 | 世帯数   | 人口     |
|-----|-------|-------|-----|-------|--------|
| 長峰  | 224   | 405   | 松峯  | 271   | 521    |
| 小瀬田 | 214   | 402   | 安房  | 522   | 936    |
| 楯川  | 56    | 114   | 春牧  | 463   | 910    |
| 楠川  | 229   | 420   | 平野  | 146   | 261    |
| 宮之浦 | 1,422 | 2,823 | 高平  | 83    | 160    |
| 志戸子 | 172   | 302   | 麦生  | 172   | 298    |
| 一湊  | 327   | 536   | 原   | 229   | 456    |
| 吉田  | 81    | 142   | 尾之間 | 409   | 714    |
| 永田  | 233   | 389   | 小島  | 93    | 181    |
| 本村  | 59    | 94    | 平内  | 337   | 642    |
| 湯向  | 7     | 9     | 湯泊  | 112   | 188    |
| 永久保 | 79    | 135   | 中間  | 112   | 199    |
| 船行  | 142   | 258   | 栗生  | 257   | 431    |
| 合 計 |       |       |     | 6,451 | 11,926 |

注) 令和 3 年 3 月 31 日現在  
出典: 統計屋久島町(令和 2 年度版)

##### (2) 人口、世帯数の推移

屋久島町における平成 17 年、22 年、27 年及び令和 2 年の各年 10 月 1 日現在の人口、世帯数の推移の状況は、図 3.2-1 に示すとおりである。世帯数は増加及び停滞しているものの、人口は減少傾向にある。



出典: 国勢調査(平成 17 年、平成 22 年、平成 27 年、令和 2 年)

図 3.2-1 屋久島町における人口と世帯数の推移

## 2) 産業

### (1) 産業構造

屋久島町における平成27年10月1日現在の産業別従業者数は表3.2-2に示すとおりである。宿泊業・飲食サービス業が多く、次いで卸売業・小売業、医療・福祉と、第3次産業の占める割合が高くなっている。

表 3.2-2 屋久島町における産業別従業者数の状況

| 業種    |                   | 従業者数<br>(人) |
|-------|-------------------|-------------|
| 第一次産業 | 農業                | 563         |
|       | 林業                | 90          |
|       | 漁業                | 118         |
|       | 小計                | 771         |
| 第二次産業 | 鉱業                | 3           |
|       | 建設業               | 497         |
|       | 製造業               | 495         |
|       | 小計                | 995         |
| 第三次産業 | 電気・ガス・熱供給・水道業     | 31          |
|       | 情報通信業             | 21          |
|       | 運輸業・郵便業           | 275         |
|       | 卸売業・小売業           | 820         |
|       | 金融業・保険業           | 67          |
|       | 不動産業・物品賃貸業        | 78          |
|       | 学術研究専門・技術サービス業    | 62          |
|       | 宿泊業・飲食サービス業       | 1,040       |
|       | 生活関連サービス業・娯楽業     | 415         |
|       | 教育・学習支援業          | 401         |
|       | 医療・福祉             | 672         |
|       | 複合サービス業           | 116         |
|       | サービス業(他に分類されないもの) | 327         |
|       | 公務                | 387         |
|       | 小計                | 4,712       |
| 分類不能  | 7                 |             |
| 総数    | 6,485             |             |

出典:統計屋久島町(令和2年度版)

## (2) 農業の状況

屋久島町における平成 27 年 2 月 1 日現在の農家数の状況を表 3.2-3 に、経営耕地面積の状況は表 3.2-4 に示すとおりである。総農家数 416 のうち自給的農家が 284 で最も多く、販売農家の中では専業農家が最も多い。経営耕地面積は、樹園地が最も多く、総経営耕地面積の 64.5%を占めている。

表 3.2-3 屋久島町における農家数の状況

| 農家種      |      | 農家数       |     |
|----------|------|-----------|-----|
| 総農家数     |      | 416       |     |
| 自給的農家    |      | 284       |     |
| 販売<br>農家 | 専業農家 | 220       |     |
|          | 兼業農家 | 第 1 種兼業農家 | 27  |
|          |      | 第 2 種兼業農家 | 134 |

出典：統計屋久島町(令和 2 年度版)

表 3.2-4 屋久島町における経営耕地面積の状況

| 耕地種 | 経営耕地面積<br>(アール) | 農家数 |
|-----|-----------------|-----|
| 田   | 4,752           | 71  |
| 畑   | 12,075          | 153 |
| 樹園地 | 30,532          | 347 |
| 総数  | 47,359          | 571 |

出典：鹿児島県統計年鑑(鹿児島県、平成 30 年)

## (3) 漁業の状況

周辺自治体における平成 25 年 11 月 1 日現在の漁業経営体数、就業者数及び漁船数は、表 3.2-5 に示すとおりである。屋久島町の漁業経営体数は 91 経営体、漁業就業者数は 142 人となっている。

表 3.2-5 屋久島町における漁業の状況

|           |          |     |
|-----------|----------|-----|
| 経営体数(経営体) | 個人       | 89  |
|           | 会社       | 2   |
|           | 総数       | 91  |
| 就業者数(人)   |          | 142 |
| 漁船隻数(隻)   | 船外機付漁船隻数 | 5   |
|           | 動力漁船隻数   | 91  |
|           | 総数       | 96  |

出典：鹿児島県統計年鑑(鹿児島県、平成 30 年)

#### (4) 工業の状況

屋久島町における平成 30 年 6 月 1 日現在の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等は、表 3.2-6 に示すとおりである。屋久島町の事業所数は 23、従業者数は 440 人となっている。

表 3.2-6 屋久島町における工業の状況

|            |           |
|------------|-----------|
| 事業所数       | 23        |
| 従業者数(人)    | 440       |
| 製造品出荷額(万円) | 1,104,371 |

出典:統計屋久島町(令和 2 年度版)

#### (5) 商業の状況

屋久島町における平成 26 年 7 月 1 日現在の事業所数、従業者数及び年間商品販売額の状況は、表 3.2-7 に示すとおりである。屋久島町の事業所数は 196、従業者数は 818 人となっている。

表 3.2-7 屋久島町における商業の状況

|             |        |
|-------------|--------|
| 事業所数        | 196    |
| 従業者数(人)     | 818    |
| 製造品出荷額(百万円) | 14,292 |

出典:統計屋久島町(令和 2 年度版)

#### (6) 林業の状況

屋久島町における令和 2 年 3 月末現在の所有形態別林野面積は、表 3.2-8 に示すとおりである。合計面積のうち国有林が最も広く、また、その 75.8%を天然林が占めている。

表 3.2-8 屋久島町における林野面積(ha)の状況

| 区分   |     | 国有林    | 町有林   | 私有林   |
|------|-----|--------|-------|-------|
| 立木地  | 人工林 | 8,021  | 469   | 2,545 |
|      | 天然林 | 29,087 | 1,396 | 4,179 |
|      | 小計  | 37,108 | 1,865 | 6,724 |
| 無立木地 |     | 11     | 267   | 174   |
| 竹林   |     | 1      | 95    | 865   |
| その他  |     | 1,265  | 35    | 57    |
| 合計   |     | 38,385 | 2,262 | 7,820 |

出典:統計屋久島町(令和 2 年度版)

### 3.2.2 土地利用の状況

#### 1) 土地利用の状況

屋久島町における平成31年1月1日現在の地目別民有地面積の構成は、表3.2-9に示すとおりである。屋久島町においては、山林の面積が最も多く、次いで畑、原野の順での面積が多くなっている。

表 3.2-9 屋久島町における地目別民有地面積の構成

| 地目     | 面積(m <sup>2</sup> ) | 構成比(%) |
|--------|---------------------|--------|
| 田      | 2,905,660           | 1.86   |
| 畑      | 21,876,362          | 13.98  |
| 宅地     | 4,749,074           | 3.03   |
| 山林     | 90,654,897          | 57.93  |
| 原野     | 20,859,908          | 13.33  |
| 雑種地    | 2,872,316           | 1.84   |
| 道路・その他 | 12,565,918          | 8.03   |
| 総数     | 156,484,135         | 100.00 |

出典:統計屋久島町(令和2年度版)

#### 2) 土地利用基本計画に基づく地域地区の指定状況

土地利用基本計画は、「国土利用計画法」(昭和49年法律第92号)に基づき土地利用に関する個別規制法である「都市計画法」(昭和43年法律第100号)、「農業振興地域の整備に関する法律」(昭和44年法律第58号)等に基づいた諸計画に対する上位計画として策定されている。

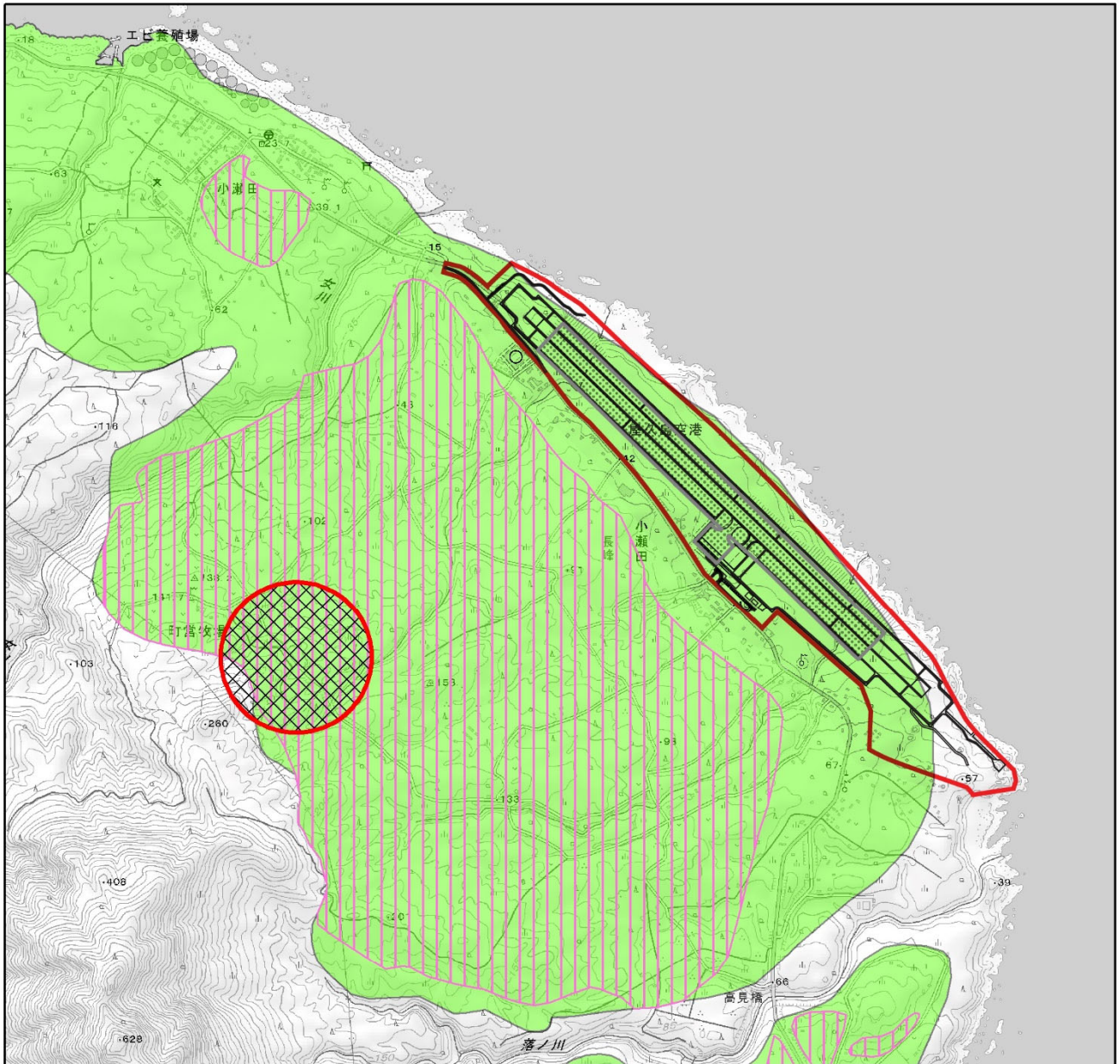
事業実施区域周辺における土地利用基本計画に基づく地域地区の指定状況は、図3.2-2に示すとおりである。

#### 3) 森林法に基づく地域森林計画の状況

事業実施区域周辺における「森林法」(昭和26年法律第249号)第5条に基づく地域森林計画対象民有林の分布状況は、図3.2-3に示すとおりである。国又は地方公共団体が、地域森林計画対象民有林において1haを超える開発行為を行う場合、林地開発許可は必要ないが、連絡調整の対象となる。

#### 4) 都市計画法に基づく地域地区の指定状況

事業実施区域周辺における都市計画法に基づく屋久都市計画区域の状況は図3.2-4に示すとおりである。屋久都市計画区域は屋久島の南東にある安房地区及び春牧地区であり、事業実施区域周辺において区域の設定はなされていない。



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 農用地区域
- 農業地域

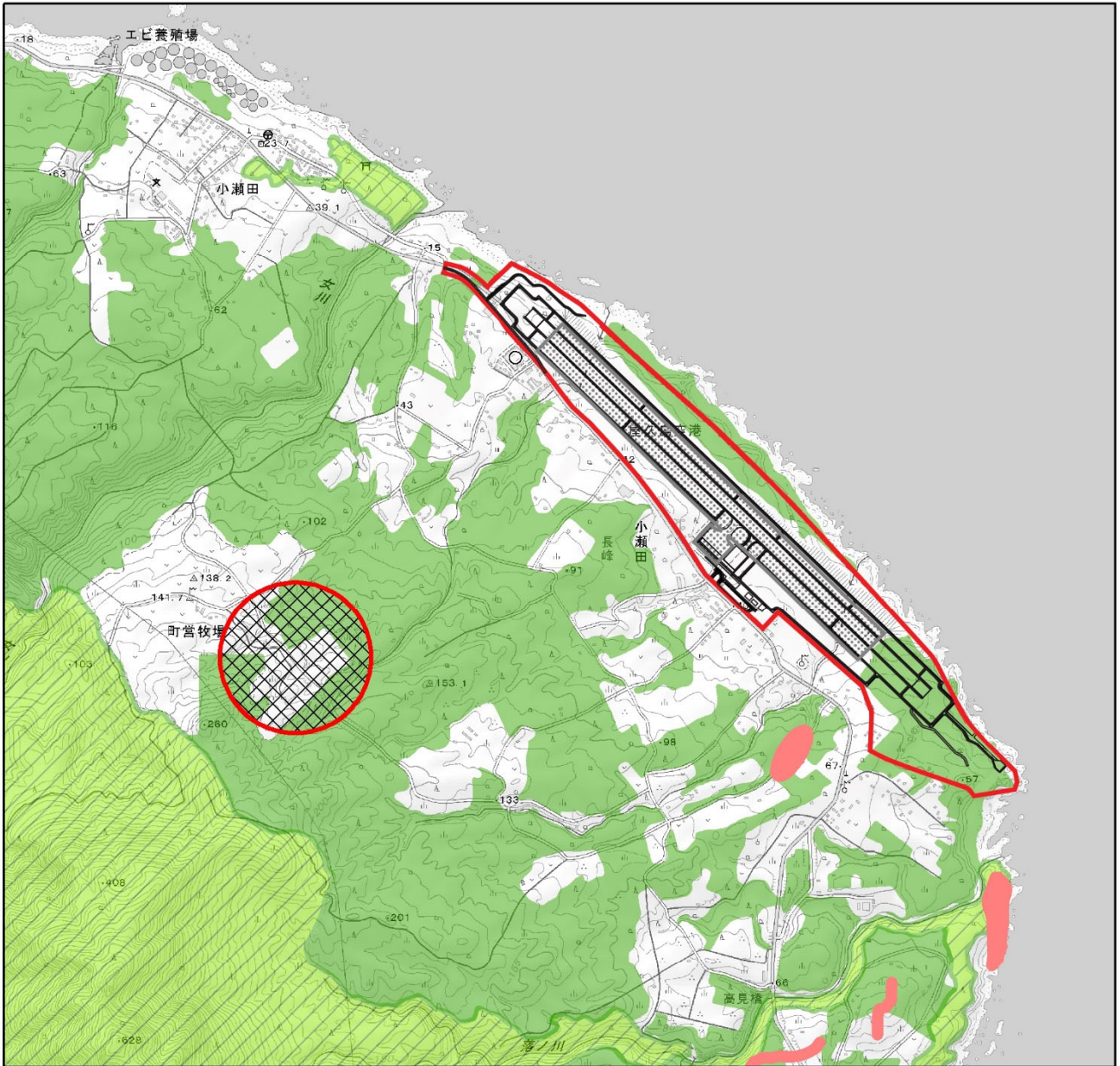
0 0.5 1 km

1:25,000



出典：LUCKY 土地利用調整総合支援ネットワークシステムより作成

図 3.2-2 土地利用計画に基づく地域地区の指定状況(農業)



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 保安林
- 国有林
- 地域森林計画対象民有林

0 0.5 1 km

1:25,000



出典：鹿児島県提供資料  
LUCKY 土地利用調整総合支援ネットワークシステムより作成

図 3.2-3 森林法に基づく地域地区の指定状況

### 屋久都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針図

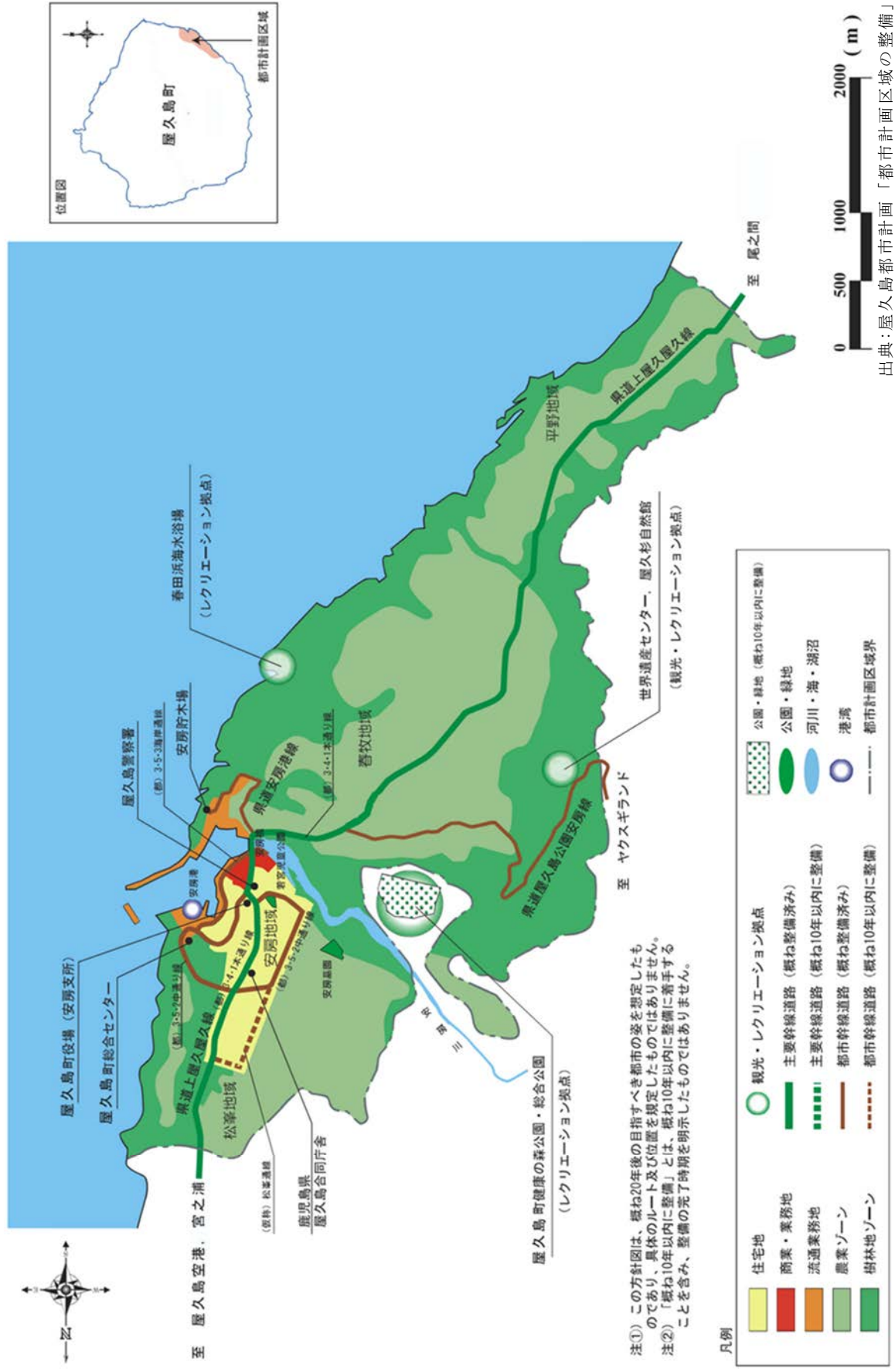


図 3.2-4 屋久都市計画の都市計画区域の整備、開発及び保全の方針図



### 3.2.3 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況

#### 1) 河川、湖沼の利用の状況

屋久島町における河川の利用状況は表 3.2-10～表 3.2-11 に示すとおりである。屋久島では簡易水道による給水が行われている。表流水については 27 箇所で見水されており、その実績取水量は 7,644m<sup>3</sup>/日である。事業実施区域周辺における給水区域を図 3.2-5 に示す。

なお内水面漁業権は屋久島町の河川において指定されていない。

#### 2) 地下水の利用の状況

事業実施区域周辺における地下水利用の状況は表 3.2-10～表 3.2-11 に示すとおりである。簡易水道による給水において、地下水の取水箇所は 1 箇所であり、その取水量は 20m<sup>3</sup>/日である。

なお、屋久島町において、地下水の揚水の規制はなされていない。

表 3.2-10 屋久島町の簡易水道利用の状況

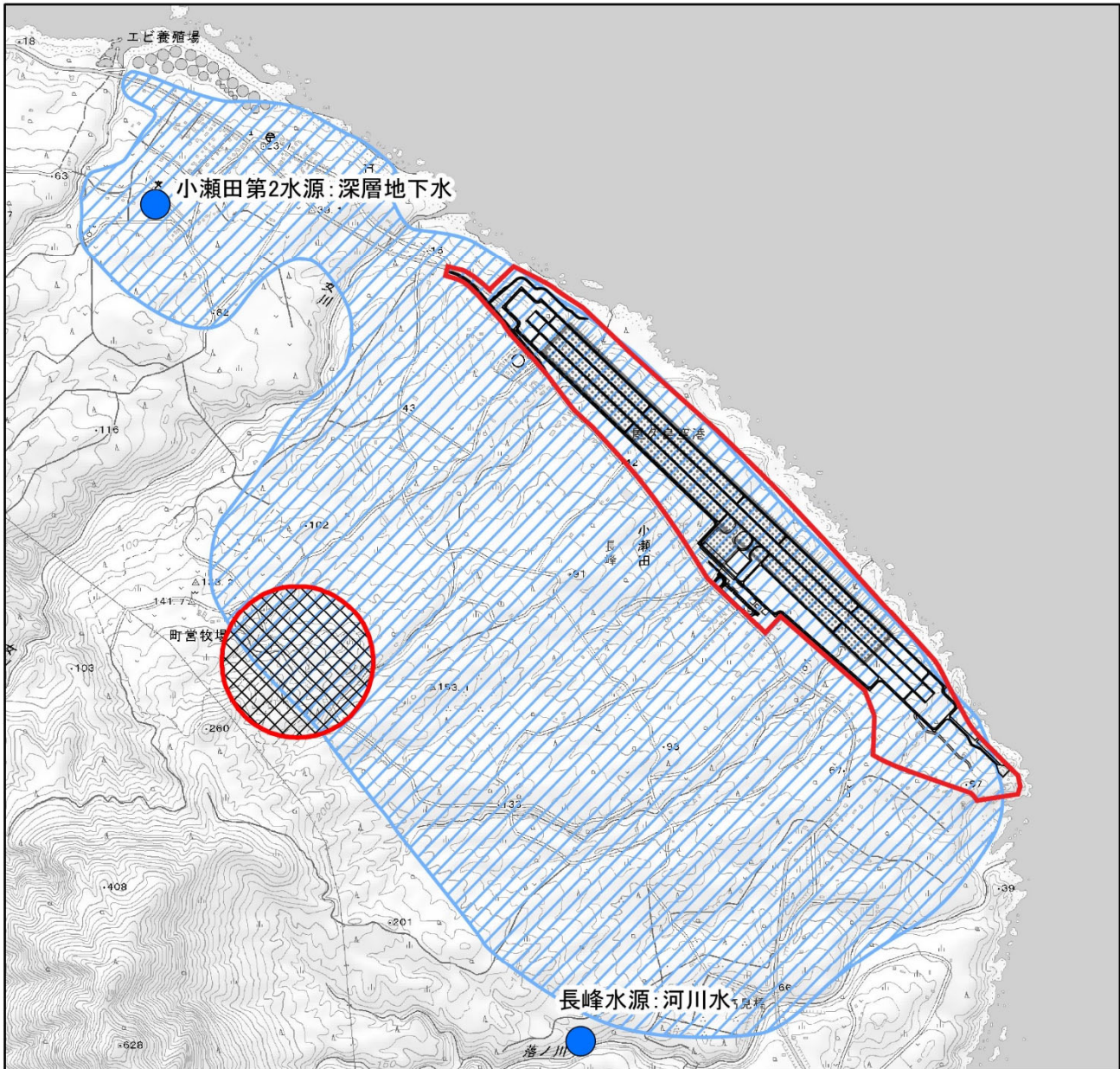
|      | 箇所数 | 計画<br>給水<br>人口<br>(人) | 現在<br>給水<br>人口<br>(人) | 実績<br>年間<br>給水量<br>(m <sup>3</sup> /年) | 実績取水量 |                            |     |                            |                            |
|------|-----|-----------------------|-----------------------|----------------------------------------|-------|----------------------------|-----|----------------------------|----------------------------|
|      |     |                       |                       |                                        | 表流水   |                            | 地下水 |                            | 計                          |
|      |     |                       |                       |                                        | 箇所数   | 取水量<br>(m <sup>3</sup> /日) | 箇所数 | 取水量<br>(m <sup>3</sup> /日) | 取水量<br>(m <sup>3</sup> /日) |
| 屋久島町 | 12  | 17,290                | 11,938                | 2,521,785                              | 27    | 7,624                      | 1   | 20                         | 7,644                      |

出典：鹿児島県の水道（鹿児島県、令和元年度）

表 3.2-11 熊毛郡の工業用水利用の状況（従業者30人以上の事業所）

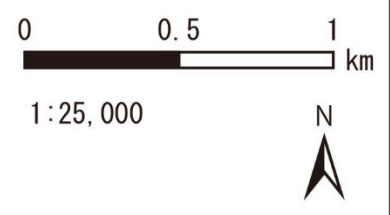
| 地域  | 事業<br>所数 | 合計<br>(m <sup>3</sup> /日) | 公共水道                         |                            | 井戸水<br>(m <sup>3</sup> /日) | その他<br>(m <sup>3</sup> /日) |
|-----|----------|---------------------------|------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
|     |          |                           | 工業用水道<br>(m <sup>3</sup> /日) | 上水道<br>(m <sup>3</sup> /日) |                            |                            |
| 熊毛郡 | 4        | 8,807                     | —                            | 286                        | 1,985                      | 6,536                      |

出典：鹿児島県の工業（鹿児島県企画部統計課、令和2年12月）



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 給水区域
- 水源地



出典：「屋久島町水道事業給水区間図」（屋久島町ウェブサイト）  
<https://www.town.yakushima.kagoshima.jp/living/water/>

図 3.2-5 水道事業給水区域図

### 3) 海域の利用の状況

屋久島における漁港種別状況は表 3.2-12 に示すとおりである。事業実施区域周辺には小瀬田漁港(第一種漁港)が位置している。

また屋久島沿岸における漁業権の状況を表 3.2-13 及び図 3.2-6 に示す。

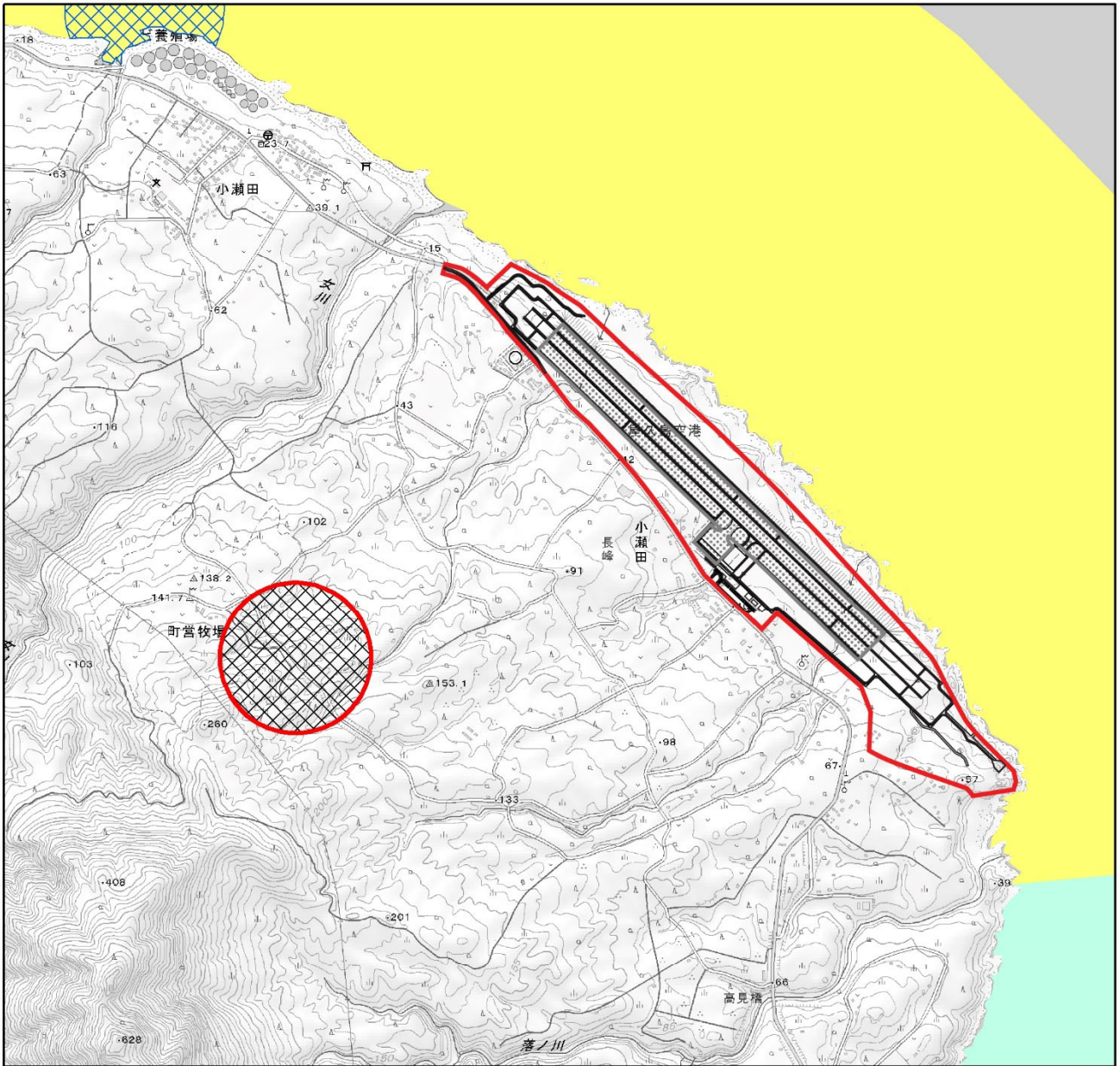
表 3.2-12 屋久島の漁港種別状況

| 漁港名 | 種別  | 漁港管理者 | 漁業協同組合    | 指定年月日            |
|-----|-----|-------|-----------|------------------|
| 志戸子 | 第一種 | 屋久島町  | 屋久島漁業協同組合 | 昭和 28 年 3 月 5 日  |
| 小瀬田 |     |       |           | 昭和 39 年 1 月 22 日 |
| 吉田  |     |       |           | 昭和 55 年 2 月 20 日 |
| 麦生  |     |       |           | 昭和 28 年 3 月 5 日  |
| 原   |     |       |           |                  |
| 栗生  |     |       |           |                  |
| 一湊  | 第四種 | 鹿児島県  |           |                  |

注) 第一種漁港利用が地元の漁業を主とするもの  
 第二種漁港利用範囲が第一種よりも広く、第三種漁港に属さないもの  
 第三種漁港その利用範囲が全国的なもの  
 第四種漁港離島その他辺地にあつて漁場の開発又は漁船の避難上特に必要なもの  
 出典: 漁港一覧(水産庁ウェブサイト、令和 3 年 4 月 1 日現在)

表 3.2-13 対象事業区域付近の共同漁業権の免許内容

| 所在地                            | 免許番号               | 免許有効期間                                        | 漁業の種類        | 漁期                                                            | 漁業の名称                                                    |
|--------------------------------|--------------------|-----------------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 鹿児島県<br>熊毛郡<br>屋久島町<br>(旧上屋久町) | 熊共第 6 号<br>熊共第 7 号 | 平成 25 年<br>9 月 1 日<br>～<br>令和 5 年<br>8 月 31 日 | 第一種<br>共同漁業権 | 1 月 1 日～12 月<br>31 日                                          | とこぶし、<br>いせえび                                            |
|                                |                    |                                               | 第二種<br>共同漁業権 | 1 月 1 日～12 月<br>31 日<br>(きびなご狩刺<br>網 7 月 1 日～翌<br>年 4 月 30 日) | いせえび稚<br>児建網、き<br>びなご狩刺<br>網、あさひ<br>がにかかり<br>網、小型定<br>置網 |



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 漁港区域(小瀬田漁港)
- 共同漁業権
- 熊共第6号
- 熊共第7号

0 0.5 1 km

1:25,000



出典：海上保安庁「海洋状況表示システム」  
「環境アセスメントデータベース」より作成

図 3.2-6 共同漁業権位置図

### 3.2.4 交通の状況

#### 1) 陸上交通道路の状況

屋久島における主要交通網は、図 3.2-7 に示すとおりである。主要な道路としては、沿岸に主要地方道である上屋久屋久線と上屋久永田屋久島線にて環状を成しており、これに市街地を中心として一般県道等が接続している。

また屋久島における平成 27 年度の道路交通センサス(全国道路・街路交通情勢調査)による交通量の調査結果は、表 3.2-14 に示すとおりである。なお、表 3.2-14 における交通量の調査地点は図 3.2-7 に示す。

表 3.2-14 屋久島における交通量

| 種類    | 路線名       | 調査地点 | 12 時間交通量(台) |     |       |           | 24 時間交通量合計(台) | 昼夜率  | H22 年 12 時間交通量(台) |
|-------|-----------|------|-------------|-----|-------|-----------|---------------|------|-------------------|
|       |           |      | 小型車         | 大型車 | 合計    | 大型車混入率(%) |               |      |                   |
| 主要地方道 | 上屋久屋久線    | ①    | 4,874       | 458 | 5,332 | 8.6       | 6,665         | 1.25 | 6,113             |
|       |           | ②    | 4,960       | 220 | 5,180 | 4.2       | 6,423         | 1.24 | 5,019             |
|       |           | ③    | 2,588       | 220 | 2,808 | 7.8       | 3,426         | 1.22 | 2,852             |
|       | 上屋久永田屋久線  | ④    | 589         | 51  | 640   | 8.0       | 768           | 1.20 | 678               |
| 一般県道  | 屋久島公園安房線  | ⑤    | 1,327       | 98  | 1,425 | 6.9       | 1,696         | 1.19 | 1,117             |
|       | 安房港線      | ⑥    | 3,827       | 159 | 3,986 | 4.0       | 4,903         | 1.23 | 3,904             |
|       | 白谷雲水峡宮之浦線 | ⑦    | 413         | 20  | 433   | 4.6       | 541           | 1.25 | 404               |

出典:全国道路・街路交通情勢調査(国土交通省、平成 27 年度)

注) 斜体で示した交通量及び大型車混入率は推定値である。

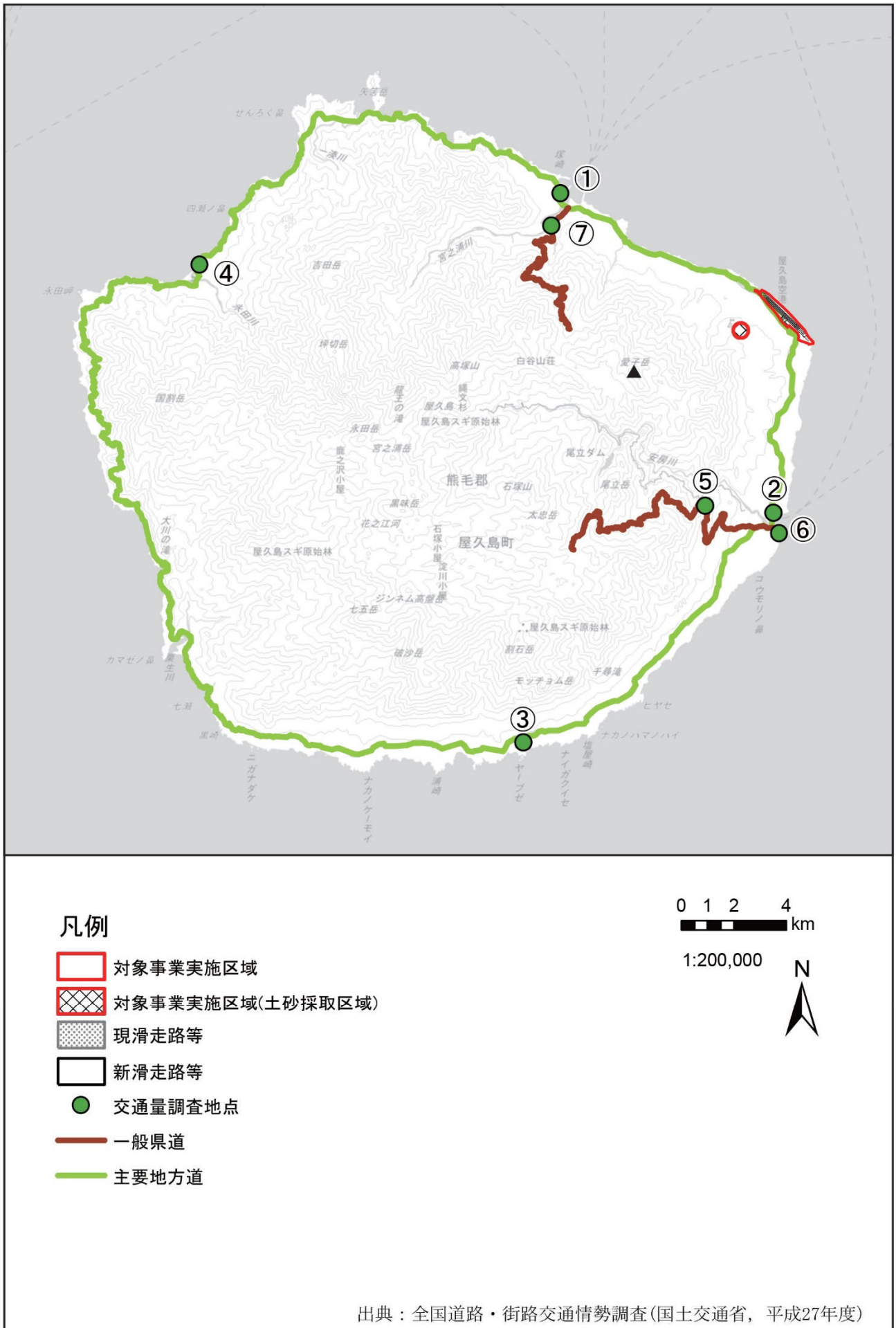


図 3.2-7 交通網及び交通量調査地点位置図

## 2) 海上交通の状況

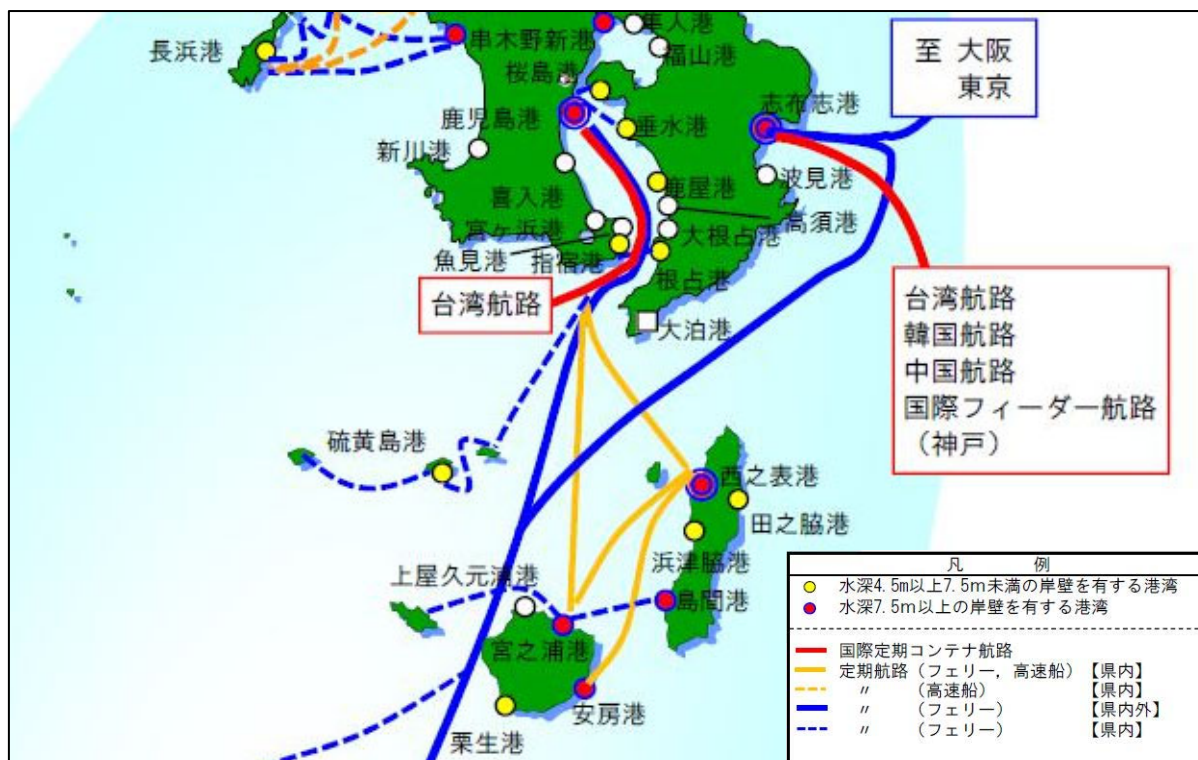
海上交通として、図 3.2-8 に示すとおり、宮之浦港及び安房港を出入港とする高速船ジェットフォイル6隻、貨客定期フェリー4隻が就航しており、屋久島と鹿児島県本土、種子島及び口永良部島の間を航行している(令和2年12月現在)。

屋久島町の宮之浦港及び安房港における海上出入貨物量は表 3.2-15 に示すとおりである。平成30年の取扱貨物量は、宮之浦港で輸移出が約29万トン、輸移入が約38万トン、安房港で輸移出が約2万トン、輸移入が約2.5万トンである。

表 3.2-15 屋久島町における海上出入貨物量(平成30年)

|         | 宮之浦港    |         | 安房港    |        |
|---------|---------|---------|--------|--------|
|         | 輸移出(t)  | 輸移入(t)  | 輸移出(t) | 輸移入(t) |
| 農水産品    | 4,380   | 5,650   | 21     | 1,639  |
| 林産品     | 401     | 1,154   | 14,598 | 3,622  |
| 鉱産品     | 3,829   | 74,469  | -      | 5,872  |
| 金属機械工業品 | 12,476  | 10,618  | 597    | 843    |
| 化学工業品   | 33,052  | 49,644  | 7      | 7,105  |
| 軽工業品    | 9,403   | 9,120   | 140    | 567    |
| 雑工業品    | 1,524   | 2,287   | 1,133  | 5,385  |
| 特種品     | 8,266   | 6,147   | 74     | 335    |
| 分類不能    | 3,239   | 3,481   | 3,843  | 45     |
| 航送車両    | 214,670 | 219,035 | -      | -      |
| 総数      | 291,240 | 381,605 | 20,413 | 25,413 |

出典:統計屋久島町(令和2年度版)



出典:鹿児島県ウェブサイト「港湾位置図」

<<https://www.pref.kagoshima.jp/ah09/infra/port/kowanseibi/kouwanitizu.html>>

図 3.2-8 定期航路の状況

### 3) 航空交通の状況

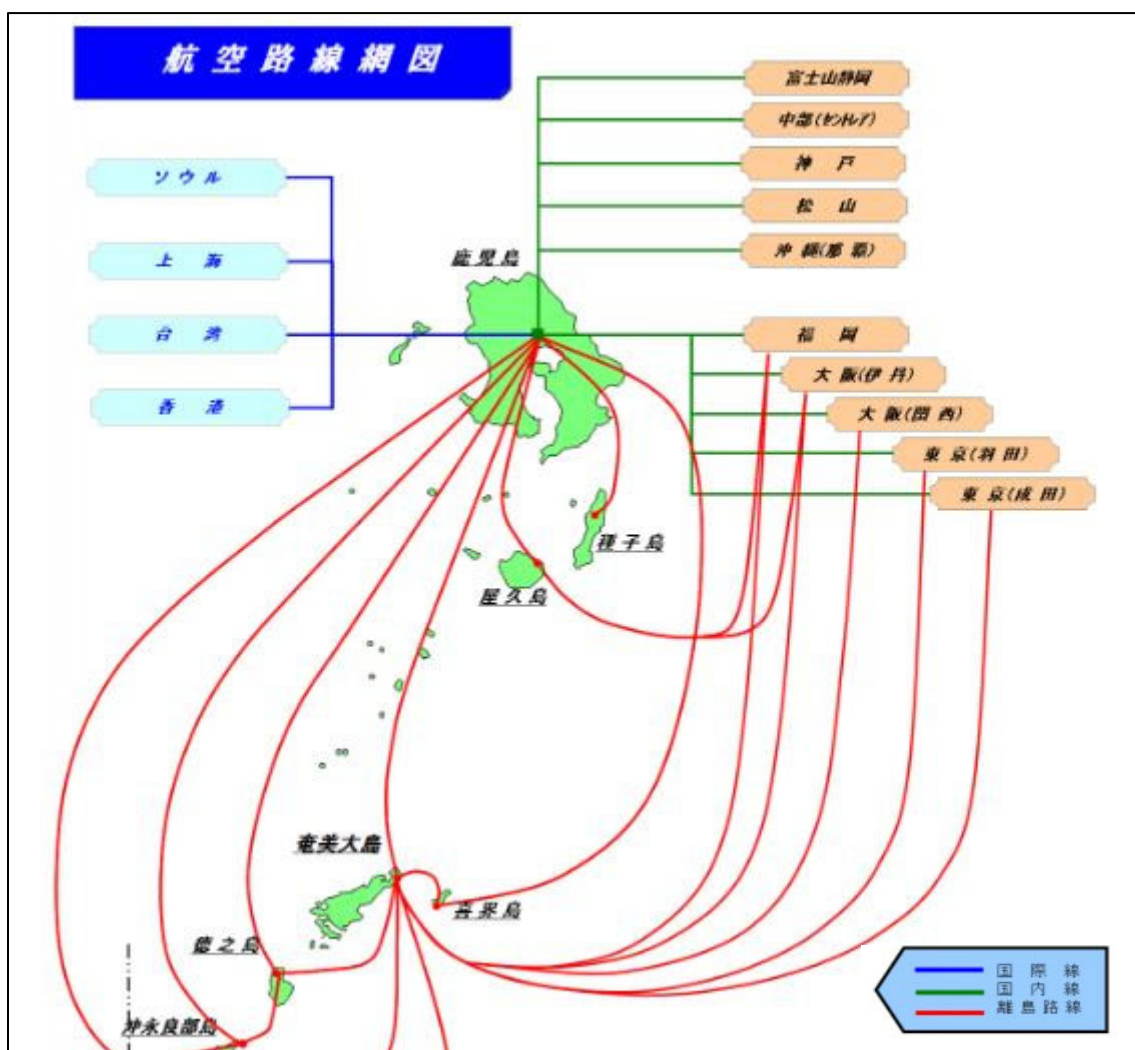
屋久島空港における乗降客数、貨物取扱量の推移は、表 3.2-16 に示すとおりである。平成 28 年度～令和 2 年度の屋久島空港における乗降客数は平成 29 年度の 92 千人をピークに令和 2 年度にかけて減少している。

また、屋久島空港における交通路線網の状況を図 3.2-9 に示す(平成 30 年 9 月現在)。

表 3.2-16 屋久島空港における航空便利用状況の推移

|          | 乗客数<br>(人) | 降客数<br>(人) | 貨物(t) |    | 郵便(kg) |       |
|----------|------------|------------|-------|----|--------|-------|
|          |            |            | 積     | 降  | 積      | 降     |
| 平成 28 年度 | 84,288     | 86,290     | 80    | 49 | 18,174 | 4,931 |
| 平成 29 年度 | 92,092     | 91,703     | 66    | 43 | 17,527 | 5,720 |
| 平成 30 年度 | 87,416     | 86,419     | 64    | 41 | 17,047 | 5,520 |
| 令和元年度    | 73,590     | 75,224     | 47    | 44 | 17,084 | 5,258 |
| 令和 2 年度  | 47,123     | 47,060     | 42    | 37 | 12,707 | 6,228 |

出典:空港管理状況調書(国土交通省航空局)



出典:鹿児島県ウェブサイト「航空路線網図」

<<https://www.pref.kagoshima.jp/ah09/infra/port/kuko/rosenmouzu.html>>

図 3.2-9 航空路線の状況

3-2-16



### 3.2.5 学校、病院、その他の環境保全について配慮が特に必要な施設の配置状況及び住宅の配置概況

#### 1) 教育施設

事業実施区域周辺における学校等の教育施設及び病院の数は表 3.2-17 に、学校の区分毎の名称一覧は表 3.2-18 に示すとおりである。

また、事業実施区域周辺における学校の位置は図 3.2-10 に示すとおりである。

表 3.2-17 屋久島町における学校、病院等の施設の数

| 学校               |     |     |      | 病院 |
|------------------|-----|-----|------|----|
| 幼稚園 <sup>注</sup> | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |    |
| 3                | 9   | 4   | 2    | 1  |

注) 幼稚園に幼保連携型認定こども園は含まれない。

出典:統計屋久島町(令和2年度版)

表 3.2-18 屋久島町の学校

| 施設   | 名称          | 位置 |
|------|-------------|----|
| 幼稚園  | 八幡幼稚園       |    |
|      | 永田幼児学級      |    |
|      | 口永良部幼児学級    |    |
| 小学校  | 永田小学校       |    |
|      | 一湊小学校       |    |
|      | 宮浦小学校       |    |
|      | 小瀬田小学校      | ①  |
|      | 安房小学校       |    |
|      | 神山小学校       |    |
|      | 八幡小学校       |    |
|      | 栗生小学校       |    |
|      | 金岳小学校       |    |
| 中学校  | 中央中学校       |    |
|      | 安房中学校       |    |
|      | 岳南中学校       |    |
|      | 金岳中学校       |    |
| 高等学校 | 屋久島高等学校     |    |
|      | 屋久島おおぞら高等学校 |    |

注) 表中の位置の欄の番号は図 3.2-10 内の番号を示す。

出典:統計屋久島町(令和2年度版)

#### 2) 医療・社会福祉施設

事業実施区域周辺における医療・社会福祉施設の区分毎の名称一覧は表 3.2-19～表 3.2-20 に示すとおりである。

また、事業実施区域周辺における医療・社会福祉施設の位置は図 3.2-10 に示すとおりである。

表3.2-19 屋久島町の病院、診療所

| 施設  | 名称           | 位置 |
|-----|--------------|----|
| 病院  | 屋久島徳洲会病院     |    |
| 診療所 | 和田医院         |    |
|     | 永田へき地出張診療所   |    |
|     | 栗生診療所        |    |
|     | 仲医院          |    |
|     | 小瀬田診療所       | ③  |
|     | 屋久島尾之間診療所    |    |
|     | 口永良部へき地出張診療所 |    |

注) 表中の位置の欄の番号は図 3.2-10 内の番号を示す。

出典:屋久島町ウェブサイト「病院・診療所」

<<http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/cust-facility/tax-facility/hospital/>>

表3.2-20 屋久島町の社会福祉施設

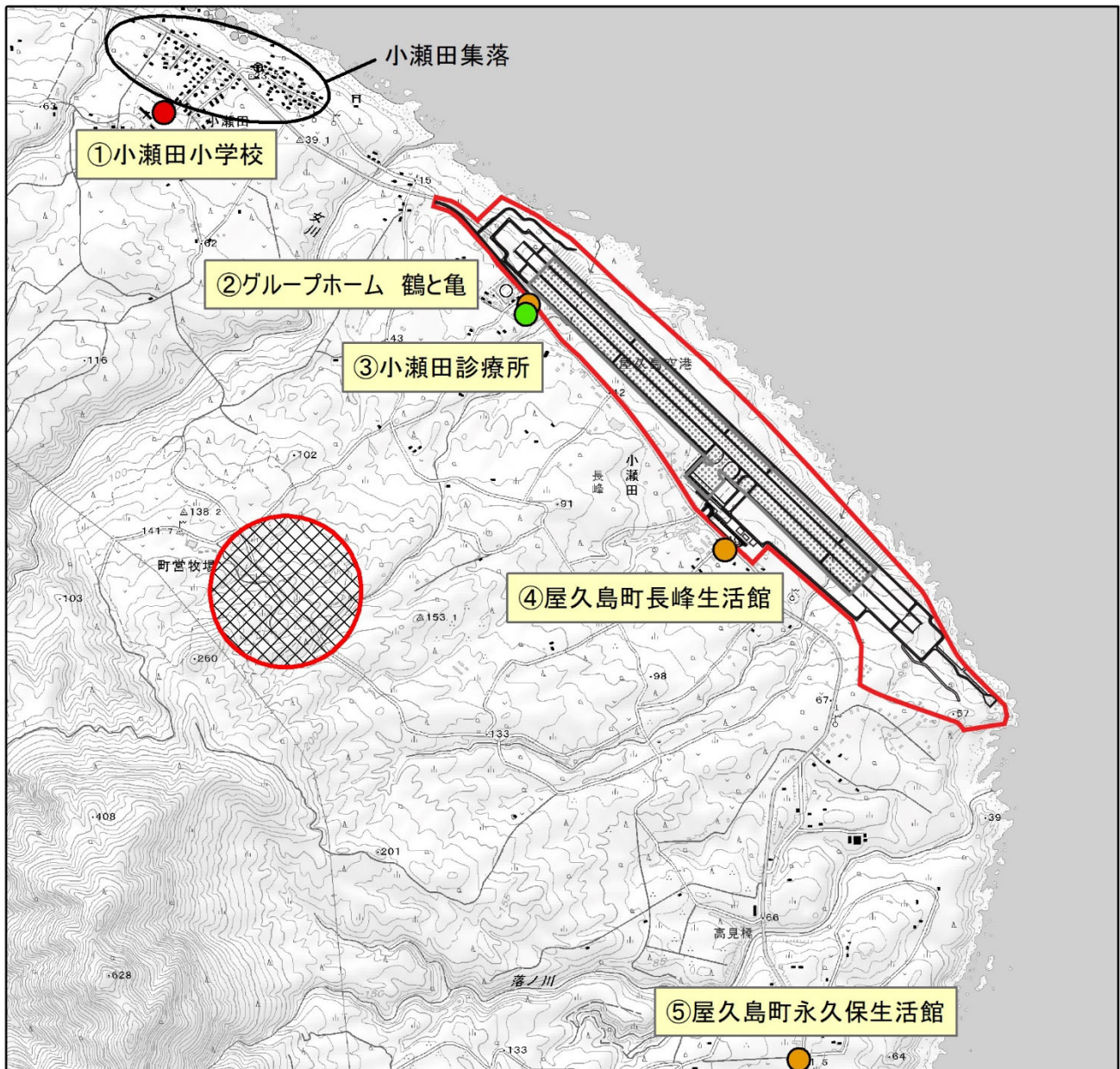
| 名称                                 | 位置 | 名称                               | 位置 |
|------------------------------------|----|----------------------------------|----|
| 保健所                                |    | 相談支援事業者                          |    |
| 屋久島保健所                             |    | 相談支援センターやくしま                     |    |
| 福祉事務所                              |    | 地域福祉センター                         |    |
| 屋久島事務所保健福祉環境課                      |    | 屋久島町福祉センター                       |    |
| 保健福祉主務課                            |    | 屋久島町総合福祉センター                     |    |
| 屋久島町健康長寿課                          |    | 保健センター                           |    |
| 屋久島町福祉事務所（福祉支援課）                   |    | 屋久島町宮之浦保健センター                    |    |
| 地域包括支援センター                         |    | 屋久島町尾之間保健センター                    |    |
| 屋久島町北部地域包括支援センター                   |    | 生活館                              |    |
| 屋久島町南部地域包括支援センター                   |    | 屋久島町榑川生活館                        |    |
| 市町村社会福祉協議会                         |    | 屋久島町長峰生活館                        | ④  |
| 屋久島町社会福祉協議会本所                      |    | 屋久島町栗生生活館                        |    |
| 屋久島町社会福祉協議会尾之間支所                   |    | 屋久島町永久保生活館                       | ⑤  |
| 高齢者保健福祉施設                          |    | 屋久島町湯泊生活館                        |    |
| 縄文の郷                               |    | 屋久島町吉田生活館                        |    |
| 竜天園                                |    | 屋久島町松峰生活館                        |    |
| 屋久島町社協デイサービスセンター「縄文の苑」             |    | 屋久島町平内生活館                        |    |
| 社会福祉法人屋久島町社会福祉協議会障害者居宅介護事務所こまどり館   |    | 老人憩いの家                           |    |
| デイサービス安房の丘                         |    | 屋久島町老人憩いの家                       |    |
| デイサービス屋久の杜                         |    | 老人ホーム                            |    |
| 特定非営利活動法人サポート&ケア屋久島ミニ・デイサービス「ほほ笑み」 |    | 有限会社岡村ひまわりのお家                    |    |
| ミニ・デイ野の花                           |    | 社会福祉法人屋久島町社会福祉協議会障害者居宅介護事業所こまどり館 |    |
| グループホームやくしま                        |    | 屋久島町社協障害者居宅介護事業所縄文の苑             |    |
| グループホームこもれびの杜                      |    | みんなのおうち                          |    |
| グループホーム鶴と亀                         | ②  | 屋久島町社協生活介護事業所こまどり館               |    |
| 訪問看護ステーション雲雀                       |    | 就労継続支援事業所屋久の郷                    |    |
| 児童福祉施設                             |    | にじいろの樹                           |    |
| なかよし保育園                            |    | 月見荘                              |    |
| 白百合保育園                             |    | 僻地保健福祉館                          |    |
| 屋久島町宮之浦児童館                         |    | 屋久島町口永良部島へき地保健福祉館                |    |
| 認定こども園ゆかり幼稚園どんぐりの森保育園              |    | 屋久島町春牧へき地保健福祉館                   |    |
| 認定こども園すみれこども園                      |    |                                  |    |
| 認定こども園あゆみの森こども園                    |    |                                  |    |
| 幼保連携型認定こども園安房保育園                   |    |                                  |    |
| 児童デイサービス縄文                         |    |                                  |    |

注) 表中の位置の欄の番号は図3.2-10内の番号を示す。

出典:保健・福祉施設一覧(鹿児島県、令和元年度)

### 3) その他

住宅の配置状況は図3.2-10に示すとおり、事業実施区域周辺の北側には小瀬田の集落があり、県道沿いに住居が点在している。なお、対象事業実施区域内には10戸程度の住居が存在しているが、事業実施段階には用地買収等が済んでいる予定である。



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 学校
- 診療所
- 福祉・介護施設
- 住居

0 0.5 1 km

1:25,000



出典：屋久島町ウェブサイト「病院・診療所」  
保険・福祉施設一覧（鹿児島県，令和元年度）

図 3.2-10 配慮が必要な施設

### 3.2.6 下水道等の整備の状況

屋久島町における汚水処理施設等の整備の状況は表 3.2-21 に示すとおりである。屋久島町において下水道の整備はなされておらず、農業集落排水及び浄化槽による生活排水の処理を行っており、その普及率はそれぞれ 3.8%、79.5%であり、屋久島町全体の人口普及率は 83.4%である。

表 3.2-21 事業実施区域周辺の自治体における公共下水道の整備状況

| 住民基本<br>台帳人口<br>(千人) | 汚水<br>処理<br>人口<br>(千人) | 人口<br>普及率<br>(%) | 下水道          |            | 農業集落排水       |            | 浄化槽          |            |
|----------------------|------------------------|------------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|
|                      |                        |                  | 普及人口<br>(千人) | 普及率<br>(%) | 普及人口<br>(千人) | 普及率<br>(%) | 普及人口<br>(千人) | 普及率<br>(%) |
| 11.9                 | 9.9                    | 83.4             | 0            | 0          | 0.5          | 3.8        | 9.5          | 79.5       |

出典：汚水処理人口普及状況（鹿児島県、令和2年度末時点）

### 3.2.7 環境の保全を目的として法令等により指定された地域その他の対象及び当該対象に係る規制その他の状況

#### 1) 環境基本法に基づく環境基準

環境基本法に基づく環境基準に係る指定地域等の状況は、表 3.2-22 に示すとおりである。

表 3.2-22 環境基準に係る指定地域の状況

| 公害防止に係る主な法令                   | 規制内容   | 指定状況 |
|-------------------------------|--------|------|
|                               |        | 屋久島町 |
| 騒音に係る環境基準(平成10年環境庁告示第64号)     | 類型指定地域 | ×    |
| 航空機騒音に係る環境基準(昭和48年環境庁告示第154号) | 類型指定地域 | ×    |

注) 指定状況において、○は存在すること、×は存在しないことを示す。

## (1) 大気汚染に係る環境基準

大気汚染に係る環境基準を表 3.2-23 に示す。

大気汚染に係る環境基準は、人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準を定めたものであり、事業実施区域周辺もこの基準が適用される。なお、二酸化窒素については、中央公害対策審議会の短期暴露指針において、「1時間暴露として0.1～0.2ppm以下」とされている。

表 3.2-23 大気汚染に係る環境基準

| 物質                                                                                                                            | 環境基準値                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 二酸化硫黄                                                                                                                         | 1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。                                |
| 一酸化炭素                                                                                                                         | 1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。                            |
| 浮遊粒子状物質                                                                                                                       | 1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。 |
| 光化学オキシダント                                                                                                                     | 1時間値が0.06ppm以下であること。                                                          |
| 二酸化窒素                                                                                                                         | 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。                                |
| ベンゼン                                                                                                                          | 1年平均値が0.003mg/m <sup>3</sup> 以下であること。                                         |
| トリクロロエチレン                                                                                                                     | 1年平均値が0.2mg/m <sup>3</sup> 以下であること。                                           |
| テトラクロロエチレン                                                                                                                    | 1年平均値が0.2mg/m <sup>3</sup> 以下であること。                                           |
| ジクロロメタン                                                                                                                       | 1年平均値が0.15mg/m <sup>3</sup> 以下であること。                                          |
| ダイオキシン類                                                                                                                       | 1年間平均値が0.6pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下であること。                                      |
| 微小粒子状物質                                                                                                                       | 1年間平均値が15μg/m <sup>3</sup> 以上であり、かつ1日平均値が35μg/m <sup>3</sup> 以下であること。         |
| 備考)                                                                                                                           |                                                                               |
| 1. 環境基準は、工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない場所については、適用しない。                                                                             |                                                                               |
| 2. 浮遊粒子状物質とは大気中に浮遊する粒子状物質であってその粒径が10μm以下のものをいう。                                                                               |                                                                               |
| 3. 二酸化窒素について、1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内にある地域にあつては、原則としてこのゾーン内において現状程度の水準を維持し、又これを大きく上回ることをしないよう努めることとする。              |                                                                               |
| 4. 光化学オキシダントとは、オゾン、パーオキシアセチルナイトレートその他の光化学反応により生成される酸化性物質(中性ヨウ化カリウム溶液からヨウ素を遊離するものに限り、二酸化窒素を除く)をいう。                             |                                                                               |
| 5. ベンゼン等による大気汚染に係る環境基準は、継続的に摂取される場合には人の健康を損なうおそれがある物質に係るものであることに鑑み、将来にわたって人の健康に係る被害が未然に防止されるようにすることを旨として、その維持又は早期達成に努めるものとする。 |                                                                               |
| 6. ダイオキシン類の基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。                                                                         |                                                                               |
| 7. 微小粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であって、粒径が2.5μmの粒子を50%の割合で分離できる分粒装置を用いて、より粒径の大きい粒子を除去した後に採取される粒子をいう。                                  |                                                                               |

- 出典:1.「大気汚染に係る環境基準について」(昭和48年環境庁告示第25号、最終改正 平成8年環境庁告示第73号)  
 2.「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年環境庁告示第38号、最終改正 平成8年環境庁告示第74号)  
 3.「ベンゼン等による大気汚染に係る環境基準について」(平成9年環境庁告示第4号、最終改正 平成30年環境省告示第100号)  
 4.「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁及び(水底の底質汚染を含む。)土壌汚染に係る環境基準」(平成11年環境庁告示第68号、最終改正 平成21年環境省告示第11号)  
 5.「微小粒子状物質による大気汚染に係る環境基準について」(平成21年環境庁告示第33号)

## (2) 騒音に係る環境基準

### ア. 環境騒音

騒音に係る環境基準を表 3.2-24 及び表 3.2-25 に示す。

騒音に係る環境基準は、生活環境を保全し、人の健康の保護に資する上で維持されることが望ましい基準である。この環境基準が適用される地域は県知事(市の区域内の地域については市長)により AA、A、B、C の類型指定がされている地域である。なお、事業実施区域周辺における騒音に係る環境基準の類型指定はなされていない。

表 3.2-24 騒音に係る環境基準

| 地域の類型  | 基準値            |                 |
|--------|----------------|-----------------|
|        | 昼間(6:00~22:00) | 夜間(22:00~翌6:00) |
| AA     | 50dB 以下        | 40dB 以下         |
| A 及び B | 55dB 以下        | 45dB 以下         |
| C      | 60dB 以下        | 50dB 以下         |

注) 1. 時間の区分は、昼間を午前6時から午後10時までの間とし、夜間を午後10時から翌日の午前6時までの間とする。

注) 2. AA:療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域

注) 3. A:専ら住居の用に供される地域

注) 4. B:主として住居の用に供される地域

注) 5. C:相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域

ただし、次表に掲げる地域に該当する地域(以下「道路に面する地域」という。)

については、上表によらず次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

| 地域の区分                                              | 基準値            |                 |
|----------------------------------------------------|----------------|-----------------|
|                                                    | 昼間(6:00~22:00) | 夜間(22:00~翌6:00) |
| A 地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域                        | 60dB 以下        | 55dB 以下         |
| B 地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC 地域のうち車線を有する道路に面する地域 | 65dB 以下        | 60dB 以下         |

注) 車線とは、1縦列の自動車が安全かつ円滑に走行する為に必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。この場合において、幹線交通を担う道路に近接する空間については、特例として次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

| 基準値            |                 |
|----------------|-----------------|
| 昼間(6:00~22:00) | 夜間(22:00~翌6:00) |
| 70dB 以下        | 65dB 以下         |

備考) 個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準(昼間にあっては45dB以下、夜間にあっては40dB以下)によることができる。

出典:「騒音に係る環境基準について」(平成10年環境庁告示第64号、最終改正 平成24年環境庁告示第54号)

表 3.2-25 騒音に係る環境基準の類型指定地域

| 地域の類型 | 該当地域                                                                        |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------|
| A     | 都市計画法の用途地域のうち<br>第1種低層住居専用地域<br>第2種低層住居専用地域<br>第1種中高層住居専用地域<br>第2種中高層住居専用地域 |
| B     | 都市計画法の用途地域のうち<br>第1種住居地域<br>第2種住居地域<br>準住居地域                                |
| C     | 都市計画法の用途地域のうち<br>近隣商業地域<br>商業地域<br>準工業地域<br>工業地域                            |

出典:「騒音に係る環境基準について」(平成10年環境庁告示第64号、最終改正 平成24年環境庁告示第54号)

## イ. 航空機騒音

航空機騒音に係る環境基準は表 3.2-26～表 3.2-28 に示す。

なお、屋久島空港においては、離島にある飛行場である為、航空機騒音に係る環境基準は適用されない。

<航空機騒音に係る環境基準について>

①環境基準は、地域の類型ごとに次表の基準値の欄に掲げるとおりとし、各類型をあてはめる地域は、都道府県知事が指定する。

表 3.2-26 航空機騒音に係る環境基準

| 地域の類型 | 基準値       |
|-------|-----------|
| I     | 57 デシベル以下 |
| II    | 62 デシベル以下 |

注) I をあてはめる地域は専ら住居の用に供される地域とし、II をあてはめる地域は I 以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域とする。

出典:「航空機騒音に係る環境基準について」(昭和 48 年環境庁告示第 154 号、最終改正 平成 19 年環境庁告示第 114 号)

<達成期間等>

環境基準は、公共用飛行場等の周辺地域においては、飛行場の区分ごとに次表の達成期間の欄に掲げる期間で達成され、又は維持されるものとする。この場合において、達成期間が 5 年をこえる地域においては、中間的に同表の改善目標の欄に掲げる目標を達成しつつ、段階的に環境基準が達成されるようにするものとする。

表 3.2-27 航空機騒音に係る環境基準

| 飛行場の区分          |                         | 達成期間 | 改善目標               |                                                                                                                                 |
|-----------------|-------------------------|------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新設飛行場           |                         | 直ちに  |                    |                                                                                                                                 |
| 第三種空港及びこれに準ずるもの |                         |      |                    |                                                                                                                                 |
| 既設飛行場           | 第二種空港(福岡空港を除く。)         | A    | 5年以内に              |                                                                                                                                 |
|                 |                         | B    |                    |                                                                                                                                 |
|                 | 成田国際空港                  |      | 10年以内              | 5年以内に、70 デシベル未満とすること又は 70 デシベル以上の地域において屋内で 50 デシベル以下とすること。                                                                      |
|                 | 第一種空港(成田国際空港を除く。)及び福岡空港 |      | 10年をこえる期間内に可及的速やかに | 1. 5年以内に、70 デシベル未満とすること又は 70 デシベル以上の地域において屋内で 50 デシベル以下とすること。<br>2. 10年以内に、62 デシベル未満とすること又は 62 デシベル以上の地域において屋内で 47 デシベル以下とすること。 |

注) 鹿児島空港は第二種空港 B、鹿屋飛行場は第一種空港に該当する。

出典:「航空機騒音に係る環境基準について」(昭和 48 年環境庁告示第 154 号、最終改正 平成 19 年環境庁告示第 114 号)

表 3.2-28 航空機騒音に係る環境基準の類型指定地域(鹿児島県内)

| 空港・飛行場名                                         | 地域の類型 | 当てはめる地域                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 鹿児島空港<br>鹿屋飛行場<br>(平成 25 年<br>鹿児島県告示第<br>401 号) | I     | 鹿屋市及び霧島市の区域(別紙図面に示す区域に限る。以下同じ。)のうち、都市計画法(昭和 43 年法律第 100 号)第 8 条第 1 項の規定により定められた同項第 1 号に掲げる第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域及び第二種中高層住居専用地域 |
|                                                 | II    | 鹿屋市及び霧島市の区域のうち、類型 I を当てはめる地域以外の地域(河川法(昭和 39 年法律第 167 号)第 6 条第 1 項に規定する河川区域又は空港敷地若しくは飛行場敷地である地域を除く。)                                          |



### (3) 水質汚濁に係る環境基準

水質汚濁に係る環境基準を表 3.2-29～表 3.2-35 に示す。

水質汚濁に係る環境基準のうち、人の健康の保護に関する環境基準は全公共用水域について一律に、生活環境の保全に関する環境基準は河川、湖沼及び海域ごとに水域類型別に定められている。なお、事業実施区域周辺の河川及び海域については、生活環境の保全に関する環境基準の類型指定はなされていない。

表 3.2-29 水質汚濁に係る環境基準

| 項目                    | 基準値          | 測定方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カドミウム                 | 0.003mg/L以下  | 日本工業規格K0102(以下「規格」という。)55.2、55.3又は55.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 全シアン                  | 検出されないこと。    | 規格38.1.2(規格38の備考11を除く。以下同じ。)及び38.2に定める方法、規格38.1.2及び38.3に定める方法又は規格38.1.2及び38.5に定める方法又は付表1に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 鉛                     | 0.01mg/L以下   | 規格54に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 六価クロム                 | 0.02mg/L以下   | 規格 65.2 (規格 65.2.2 及び 65.2.7 を除く。)に定める方法(ただし、次の1から3までに掲げる場合にあっては、それぞれ1から3までに定めるところによる。) 1 規格 65.2.1 に定める方法による場合 原則として光路長 50mm の吸収セルを用いること。 2 規格 65.2.3、65.2.4 又は 65.2.5 に定める方法による場合(規格 65.の備考 11 の b) による場合に限る。) 試料に、その濃度が基準値相当分(0.02mg/L)増加するように六価クロム標準液を添加して添加回収率を求め、その値が 70～120%であることを確認すること。<br>3 規格 65.2.6 に定める方法により汽水又は海水を測定する場合 2 に定めるところによるほか、日本産業規格K0170-7の7の a) 又は b) に定める操作を行うこと。 |
| 砒素                    | 0.01mg/L以下   | 規格61.2、61.3又は61.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 総水銀                   | 0.0005mg/L以下 | 付表2に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| アルキル水銀                | 検出されないこと。    | 付表3に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| P C B                 | 検出されないこと。    | 付表4に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ジクロロメタン               | 0.02mg/L以下   | 日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 四塩化炭素                 | 0.002mg/L以下  | 日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1,2-ジクロロエタン           | 0.004mg/L以下  | 日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 1,1-ジクロロエチレン          | 0.1mg/L以下    | 日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 1,1,2-ジクロロエチレン        | 0.04mg/L以下   | 日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 1,1,1-トリクロロエタン        | 1mg/L以下      | 日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1,1,2-トリクロロエタン        | 0.006mg/L以下  | 日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| トリクロロエチレン             | 0.01mg/L以下   | 日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| テトラクロロエチレン            | 0.01mg/L以下   | 日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1,3-ジクロロプロペン          | 0.002mg/L以下  | 日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| チウラム                  | 0.006mg/L以下  | 付表5に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| シマジン                  | 0.003mg/L以下  | 付表6の第1又は第2に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| チオベンカルブ               | 0.02mg/L以下   | 付表6の第1又は第2に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ベンゼン                  | 0.01mg/L以下   | 日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| セレン                   | 0.01mg/L以下   | 規格67.2、67.3又は67.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素         | 10mg/L以下     | 硝酸性窒素にあっては規格43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6に定める方法、亜硝酸性窒素にあっては規格43.1に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ふっ素                   | 0.8mg/L以下    | 規格34.1(規格34の備考1を除く。)若しくは34.4(妨害となる物質としてハロゲン化合物が多量に含まれる試料を測定する場合にあっては、蒸留試薬溶液として、水約200mlに硫酸10ml、りん酸60ml及び塩化ナトリウム10gを溶かした溶液とグルセリン250mlを混合し、水を加えて1,000mlとしたものを用い、日本工業規格K0170-6の6図2注記のアルミニウム溶液のラインを追加する。)に定める方法又は規格34.1.1c(注(2)第三文及び規格34の備考1を除く。)に定める方法(懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しない場合にあっては、これを省略することができる。)及び付表7に掲げる方法                                                                         |
| ほう素                   | 1mg/L以下      | 規格47.1、47.3又は47.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 1,4-ジオキサン             | 0.05mg/L以下   | 付表8に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ダイオキシン類<br>(水底の底質を除く) | 1pg-TEQ/L以下  | 日本工業規格K0312に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 備考                    |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

出典:1.「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環境庁告示第59号、最終改正 令和3年環水大発第2110072号)  
2.「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準」  
(平成11年環境庁告示第68号、最終改正 平成21年環境省告示第11号)

表 3.2-30 生活環境の保全に関する環境基準(河川(湖沼を除く))

| 項目<br>類型 | 利用目的<br>の適応性                        | 基準値                                                                                |                             |                              |                                                                                                |                              |
|----------|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
|          |                                     | 水素イオン<br>濃度<br>(pH)                                                                | 生物化学<br>的酸素<br>要求量<br>(BOD) | 浮遊物<br>質<br>量<br>(SS)        | 溶存<br>酸素量<br>(DO)                                                                              | 大腸菌<br>数                     |
| AA       | 水道1級<br>自然環境保全及<br>びA以下の欄に掲<br>げるもの | 6.5以上<br>8.5以下                                                                     | 1mg/L<br>以下                 | 25mg/L<br>以下                 | 7.5mg/L<br>以上                                                                                  | 20CFU/<br>100ml以<br>下        |
| A        | 水道2級<br>水産1級<br>水浴及びB以下の<br>欄に掲げるもの | 6.5以上<br>8.5以下                                                                     | 2mg/L<br>以下                 | 25mg/L<br>以下                 | 7.5mg/L<br>以上                                                                                  | 300CFU/<br>100ml以<br>下       |
| B        | 水道3級<br>水産2級<br>及びC以下の欄に<br>掲げるもの   | 6.5以上<br>8.5以下                                                                     | 3mg/L<br>以下                 | 25mg/L<br>以下                 | 5mg/L<br>以上                                                                                    | 1,000CF<br>U/<br>100ml以<br>下 |
| C        | 水産3級<br>工業用水1級及<br>びD以下の欄に掲<br>げるもの | 6.5以上<br>8.5以下                                                                     | 5mg/L<br>以下                 | 50mg/L<br>以下                 | 5mg/L<br>以上                                                                                    | -                            |
| D        | 工業用水2級<br>農業用水及びEの<br>欄に掲げるもの       | 6.0以上<br>8.5以下                                                                     | 8mg/L<br>以下                 | 100mg/L<br>以下                | 2mg/L<br>以上                                                                                    | -                            |
| E        | 工業用水3級<br>環境保全                      | 6.0以上<br>8.5以下                                                                     | 10mg/L<br>以下                | ごみ等の<br>浮遊が認<br>められない<br>こと。 | 2mg/L<br>以上                                                                                    | -                            |
| 測定方法     |                                     | 規格12.1に定め<br>る方法又はガラ<br>ス電極を用いる<br>水質自動監視測<br>定装置によりこ<br>れと同程度の計<br>測結果の得られ<br>る方法 | 規格21に定め<br>る方法              | 付表9に掲<br>げる方法                | 規格32に定める<br>方法又は隔膜電<br>極若しくは光学<br>式センサーを用<br>いる水質自動監<br>視測定装置によ<br>りこれと同程度<br>の計測結果の得<br>られる方法 | 付表10に<br>掲げる方法               |

備考

- 1 基準値は、日間平均値とする。ただし、大腸菌数に係る基準値については、90%水質値（年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べた際の0.9×n番目（nは日間平均値のデータ数）のデータ値（0.9×nが整数でない場合は端数を切り上げた整数番目の値をとる。）とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 2 農業用利水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/L以上とする（湖沼もこれに準ずる。）。
- 3 水質自動監視測定装置とは、当該項目について自動的に計測することができる装置であって、計測結果を自動的に記録する機能を有するもの又はその機能を有する機器と接続されているものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 4 水道1級を利用目的としている地点（自然環境保全を利用目的としている地点を除く。）については、大腸菌数100CFU/100ml以下とする。
- 5 水産1級、水産2級及び水産3級については、当分の間、大腸菌数の項目の基準値は適用しない（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 6 大腸菌数に用いる単位はCFU（コロニー形成単位（Colony Forming Unit））/100mlとし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出する。

注) 1. 自然環境保全: 自然探勝等の環境保全

注) 2. 水道1級: ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの

〃 2級: 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの

〃 3級: 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの

注) 3. 水産1級: ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用

〃 2級: サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用

〃 3級: コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用

注) 4. 工業用水1級: 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの

〃 2級: 薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの

〃 3級: 特殊の浄水操作を行うもの

注) 5. 環境保全: 国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

出典: 「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環境庁告示第59号、令和3年環水大発第2110072号)

表 3.2-31 生活環境の保全に関する環境基準(河川(湖沼を除く)の水生生物保全)

| 項目<br>類型 | 水生生物の生息状<br>況の<br>適応性                                       | 基準値        |              |                              |
|----------|-------------------------------------------------------------|------------|--------------|------------------------------|
|          |                                                             | 全亜鉛        | ノニルフェノール     | 直鎖アルキルベ<br>ンゼンスルホン<br>酸及びその塩 |
| 生物A      | イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域                      | 0.03mg/L以下 | 0.001mg/L以下  | 0.03mg/L以下                   |
| 生物特A     | 生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域      | 0.03mg/L以下 | 0.0006mg/L以下 | 0.02mg/L以下                   |
| 生物B      | コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域                         | 0.03mg/L以下 | 0.002mg/L以下  | 0.05mg/L以下                   |
| 生物特B     | 生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L以下 | 0.002mg/L以下  | 0.04mg/L以下                   |
| 測定方法     |                                                             | 規格53に定める方法 | 付表11に掲げる方法   | 付表12に掲げる方法                   |

出典:「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環境庁告示第59号、最終改正 平成31年環境省告示第46号)

表 3.2-32 生活環境の保全に関する環境基準(海域)

| 項目<br>類型                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 利用目的の<br>適応性                                  | 基準値                                                                                    |                                                                                          |                                                                                                |                     |                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|-------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                               | 水素イオン<br>濃度<br>(pH)                                                                    | 化学的<br>酸素<br>要求量<br>(COD)                                                                | 溶存酸素量<br>(DO)                                                                                  | 大腸菌数                | n-ヘキサン<br>抽出物質<br>(油分等) |
| A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 水産1級<br>水浴<br>自然環境保<br>全及びB以<br>下の欄に掲<br>げるもの | 7.8以上<br>8.3以下                                                                         | 2mg/L 以下                                                                                 | 7.5mg/L 以上                                                                                     | 300CFU/<br>100ml 以下 | 検出され<br>ないこと。           |
| B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 水産2級<br>工業用水及<br>びCの欄に<br>掲げるもの               | 7.8以上<br>8.3以下                                                                         | 3mg/L 以下                                                                                 | 5mg/L 以上                                                                                       | —                   | 検出され<br>ないこと。           |
| C                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 環境保全                                          | 7.0以上<br>8.3以下                                                                         | 8mg/L 以下                                                                                 | 2mg/L 以上                                                                                       | —                   | —                       |
| 測定方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                               | 規格12.1に定<br>める方法又は<br>ガラス電極を<br>用いる水質自<br>動監視測定装<br>置によりこれ<br>と同程度の計<br>測結果の得ら<br>れる方法 | 規格17に定め<br>る方法(ただ<br>し、B類型の工<br>業用水及び水<br>産2級のうちノ<br>リ養殖の利水<br>点における測<br>定方法はアル<br>カリ性法) | 規格32に定め<br>る方法又は隔膜電<br>極若しくは光学<br>式センサーを用<br>いる水質自動監<br>視測定装置によ<br>りこれと同程度<br>の計測結果の得<br>られる方法 | 付表10に掲げ<br>る定方法     | 付表14に掲げ<br>る方法          |
| <p>備考</p> <p>1 自然環境保全を利用目的としている地点については、大腸菌数 20 C F U / 100ml 以下とする。</p> <p>2 アルカリ性法とは次のものをいう。</p> <p>試料 50ml を正確に三角フラスコにとり、水酸化ナトリウム溶液(10w/v%) 1ml を加え、次に過マンガン酸カリウム溶液(2mmol/l) 10ml を正確に加えたのち、沸騰した水浴中に正確に 20 分放置する。その後よう化カリウム溶液(10w/v%) 1ml とアジ化ナトリウム溶液(4w/v%) 1 滴を加え、冷却後、硫酸(2+1)0.5ml を加えてよう素を遊離させて、それを力価の判明しているチオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/l) ででんぷん溶液を指示薬として滴定する。同時に試料の代わりに蒸留水を用い、同様に処理した空試験値を求め、次式により COD 値を計算する。</p> $\text{COD}(\text{O}_2\text{mg/l}) = 0.08 \times [(b) - (a)] \times f\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3 \times 1000/50$ <p>(a): チオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/l) の滴定値(ml)</p> <p>(b): 蒸留水について行なった空試験値(ml)</p> <p>fNa<sub>2</sub>S<sub>2</sub>O<sub>3</sub>: チオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/l) の力価</p> <p>3 大腸菌数に用いる単位は C F U (コロニー形成単位 (Colony Forming Unit)) / 100ml とし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出する。</p> |                                               |                                                                                        |                                                                                          |                                                                                                |                     |                         |

注) 1. 自然環境保全: 自然探勝等の環境保全

注) 2. 水産 1 級: マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産 2 級の水産生物用

〃 2 級: ポラ、ノリ等の水産生物用

注) 3. 環境保全: 国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む)において不快感を生じない限度

出典: 「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環境庁告示第59号、最終改正 平成31年環境省告示第46号)

表 3.2-33 生活環境の保全に関する環境基準(海域の窒素、磷)

| 項目<br>類型                                                                      | 利用目的の適応性                                    | 基準値                |              |
|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------|--------------|
|                                                                               |                                             | 全窒素                | 全磷           |
| I                                                                             | 自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの<br>(水産2種及び3種を除く。)      | 0.2mg/L以下          | 0.02mg/L以下   |
| II                                                                            | 水産1種<br>水浴及びIII以下の欄に掲げるもの<br>(水産2種及び3種を除く。) | 0.3mg/L以下          | 0.03mg/L以下   |
| III                                                                           | 水産2種及びIVの欄に掲げるもの<br>(水産3種を除く。)              | 0.6mg/L以下          | 0.05mg/L以下   |
| IV                                                                            | 水産3種<br>工業用水<br>生物生息環境保全                    | 1mg/L以下            | 0.09mg/L以下   |
| 測定方法                                                                          |                                             | 規格45.4又は45.6に定める方法 | 規格46.3に定める方法 |
| 備考<br>1 基準値は、年間平均値とする。<br>2 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。 |                                             |                    |              |

注) 1. 自然環境保全: 自然探勝等の環境保全

注) 2. 水産1種: 底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される

水産2種: 一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される

水産3種: 汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される

注) 3. 生物生息環境保全: 年間を通して底生生物が生息できる限度

出典: 「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環境庁告示第59号、最終改正令和3年環水大発第2110072号)

表 3.2-34 生活環境の保全に関する環境基準(海域の水生生物保全)

| 項目<br>類型 | 水生生物の生息状況<br>の適応性                             | 基準値        |              |                      |
|----------|-----------------------------------------------|------------|--------------|----------------------|
|          |                                               | 全亜鉛        | ノニルフェノール     | 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 |
| 生物A      | 水生生物の生息する水域                                   | 0.02mg/L以下 | 0.001mg/L以下  | 0.01mg/L以下           |
| 生物特A     | 生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.01mg/L以下 | 0.0007mg/L以下 | 0.006mg/L以下          |
| 測定方法     |                                               | 規格53に定める方法 | 付表11に掲げる方法   | 付表12に掲げる方法           |

出典: 「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環境庁告示第59号、最終改正 平成31年環境省告示第46号)

表 3.2-35 生活環境の保全に関する環境基準(海域の水生生物保全)

| 項目<br>類型                                           | 水生生物が生息・再生産する場の適応性                                                                               | 基準値        |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
|                                                    |                                                                                                  | 底層溶存酸素量    |
| 生物1                                                | 生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生産する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生産する水域                 | 4.0mg/L 以上 |
| 生物2                                                | 生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生産する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生産する水域 | 3.0mg/L 以下 |
| 生物3                                                | 生息段階において貧酸素耐性の高い水生生物が生息できる場を保全・再生産する水域、再生産段階において貧酸素耐性の高い水生生物が再生産できる場を保全・再生産する水域又は無生物域を解消する水域     | 2.0mg/L 以下 |
| 測定方法                                               | 規格32に定める方法又は付表13に掲げる方法                                                                           |            |
| 備考                                                 |                                                                                                  |            |
| 1 基準値は、日間平均値とする。                                   |                                                                                                  |            |
| 2 底面付近で溶存酸素量の変化が大きいことが想定される場合の採水には、横型のバンドン採水器を用いる。 |                                                                                                  |            |

出典:「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環境庁告示第59号、最終改正 平成31年環境省告示第46号)

#### (4) 地下水の水質汚濁に係る環境基準

地下水の水質汚濁に係る環境基準を表 3.2-36 に示す。

表 3.2-36 地下水の水質汚濁に係る環境基準

| 項目                          | 基準値          | 測定方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カドミウム                       | 0.003mg/L以下  | 日本産業規格(以下「規格」という。)K0102の55.2、55.3又は55.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 全シアン                        | 検出されないこと     | 規格K0102の38.1.2(規格K0102の38の備考11を除く。以下同じ。)及び38.2に定める方法、規格K0102の38.1.2及び38.3に定める方法、規格K0102の38.1.2及び38.5に定める方法昭和46年12月環境庁告示第59号(水質汚濁に係る環境基準について)(以下「公共用水域告示」という。)付表1に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                           |
| 鉛                           | 0.01mg/L以下   | 規格K0102の54に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 六価クロム                       | 0.02mg/L以下   | 規格 65.2 (規格 65.2.2 及び 65.2.7 を除く。)に定める方法(ただし、次の1から3までに掲げる場合にあっては、それぞれ1から3までに定めるところによる。) 1 規格 65.2.1 に定める方法による場合 原則として光路長 50mm の吸収セルを用いること。2 規格 65.2.3、65.2.4 又は 65.2.5 に定める方法による場合(規格 65. の備考 11 の b) による場合に限る。) 試料に、その濃度が基準値相当分(0.02mg/L)増加するように六価クロム標準液を添加して添加回収率を求め、その値が70~120%であることを確認すること。3 規格 65.2.6 に定める方法により汽水又は海水を測定する場合 2 に定めるところによるほか、日本産業規格K0170-7の7の a) 又は b) に定める操作を行うこと。          |
| 砒素                          | 0.01mg/L以下   | 規格K0102の61.2、61.3又は61.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 総水銀                         | 0.0005mg/L以下 | 公共用水域告示付表2に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| アルキル水銀                      | 検出されないこと     | 公共用水域告示付表3に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| PCB                         | 検出されないこと     | 公共用水域告示付表4に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ジクロロメタン                     | 0.02mg/L以下   | 規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 四塩化炭素                       | 0.002mg/L以下  | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| クロロエチレン(別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー) | 0.002mg/L以下  | 付表に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 1,2-ジクロロエタン                 | 0.004mg/L以下  | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 1,1-ジクロロエチレン                | 0.1mg/L以下    | 規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 1,2-ジクロロエチレン                | 0.04mg/L以下   | シス体にあつては規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法、トランス体にあつては、規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 1,1,1-トリクロロエタン              | 1mg/L以下      | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 1,1,2-トリクロロエタン              | 0.006mg/L以下  | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| トリクロロエチレン                   | 0.01mg/L以下   | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| テトラクロロエチレン                  | 0.01mg/L以下   | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 1,3-ジクロロプロペン                | 0.002mg/L以下  | 規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| チウラム                        | 0.006mg/L以下  | 公共用水域告示付表5に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| シマジン                        | 0.003mg/L以下  | 公共用水域告示付表6の第1又は第2に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| チオベンカルブ                     | 0.02mg/L以下   | 公共用水域告示付表6の第1又は第2に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ベンゼン                        | 0.01mg/L以下   | 規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| セレン                         | 0.01mg/L以下   | 規格K0102の67.2、67.3又は67.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素               | 10mg/L以下     | 硝酸性窒素にあつては規格K0102の43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6に定める方法、亜硝酸性窒素にあつては規格K0102の43.1に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ふっ素                         | 0.8mg/L以下    | 規格K0102の34.1(規格K0102の34の備考1を除く。)若しくは34.4(妨害となる物質としてハロゲン化合物又はハロゲン化水素が多量に含まれる試料を測定する場合にあつては、蒸留試薬溶液として、水約200mlに硫酸10ml、りん酸60ml及び塩化ナトリウム10g溶かした溶液とグリセリン250mlを混合し、水を加えて1,000mlとしたものを用い、規格K0170-6の6図2注記のアルミニウム溶液のラインを追加する。)に定める方法又は規格K0102の34.1.1c)(注 <sup>2)</sup> 第三文及び規格K0102の34の備考1を除く。)に定める方法(懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しないことを確認した場合にあつては、これを省略することができる。)及び公共用水域告示付表7に掲げる方法                      |
| ほう素                         | 1mg/L以下      | 規格K0102の47.1、47.3又は47.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 1,4-ジオキサン                   | 0.05mg/L以下   | 公共用水域告示付表8に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 備考                          |              | <p>1. 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。</p> <p>2. 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。</p> <p>3. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格K0102の43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと規格K0102の43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。</p> <p>4. 1,2-ジクロロエチレンの濃度は、規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2により測定されたシス体の濃度と規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1により測定されたトランス体の濃度の和とする。</p> |

出典:「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」(平成9年環境庁告示第10号、最終改正 令和3年環水大発第2110072号)

### (5) 底質の汚染に係る環境基準

底質に係る環境基準(ダイオキシン類)を表 3.2-37 に示す。

表 3.2-37 底質に係る環境基準

| 項目                                            | 基準値           | 測定方法                                                     |
|-----------------------------------------------|---------------|----------------------------------------------------------|
| ダイオキシン類                                       | 150pg-TEQ/g以下 | 水底の底質中に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法 |
| 備考:基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。 |               |                                                          |

出典:「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌汚染に係る環境基準」(平成11年環境庁告示第68号、最終改正 平成21年環境省告示第11号)



(6) 土壌の汚染に係る環境基準

土壌の汚染に係る環境基準を表 3.2-38 に示す。

表 3.2-38 土壌の汚染に係る環境基準

| 項目                          | 環境上の条件                                                     | 測定方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カドミウム                       | 検液1Lにつき0.003mg以下であり、かつ、農用地においては、米1kgにつき0.4mg以下であること。       | 環境上の条件のうち、検液中濃度に係るものにあつては、日本産業規格K0102(以下「規格」という。)55に定める方法、農用地に係るものにあつては、昭和46年6月農林省令第47号に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 全シアン                        | 検液中に検出されないこと。                                              | 規格38に定める方法(規格38.1.1及び38の備考11に定める方法を除く。)又は昭和46年12月環境庁告示第59号付表1に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 有機燐(りん)                     | 検液中に検出されないこと。                                              | 昭和49年9月環境庁告示第64号付表1に掲げる方法又は規格31.1に定める方法のうちガスクロマトグラフ法以外のもの(メチルジメトンにあつては、昭和49年9月環境庁告示第64号付表2に掲げる方法)                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 鉛                           | 検液1Lにつき0.01mg以下であること。                                      | 規格54に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 六価クロム                       | 検液1Lにつき0.05mg以下であること。                                      | 規格65.2(規格65.2.7を除く。)に定める方法(ただし、規格65.2.6に定める方法により塩分の濃度の高い試料を測定する場合には、日本工業規格K0170-7の7のa)又はb)に定める操作を行うものとする。)                                                                                                                                                                                                                                         |
| 砒(ひ)素                       | 検液1Lにつき0.01mg以下であり、かつ、農用地(田に限る。)においては、土壌1kgにつき15mg未満であること。 | 環境上の条件のうち、検液中濃度に係るものにあつては、規格61に定める方法、農用地に係るものにあつては、昭和50年4月総理府令第31号に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 総水銀                         | 検液1Lにつき0.0005mg以下であること。                                    | 昭和46年12月環境庁告示第59号付表2に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| アルキル水銀                      | 検液中に検出されないこと                                               | 昭和46年12月環境庁告示第59号付表3及び昭和49年9月環境庁告示第64号付表3に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| PCB                         | 検液中に検出されないこと                                               | 昭和46年12月環境庁告示第59号付表4に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 銅                           | 農用地(田に限る)において、土壌1kgにつき125mg未満であること。                        | 昭和47年10月総理府令第66号に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ジクロロメタン                     | 0.02mg/L以下                                                 | 日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 四塩化炭素                       | 0.002mg/L以下                                                | 日本産業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| クロロエチレン(別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー) | 0.002mg/L以下                                                | 平成9年3月環境庁告示第10号付表に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 1,2-ジクロロエタン                 | 0.004mg/L以下                                                | 日本産業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 1,1-ジクロロエチレン                | 0.1mg/L以下                                                  | 日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1,2-ジクロロエチレン                | 0.04mg/L以下                                                 | シス体にあつては日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法、トランス体にあつては日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 1,1,1-トリクロロエタン              | 1mg/L以下                                                    | 日本産業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 1,1,2-トリクロロエタン              | 0.006mg/L以下                                                | 日本産業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| トリクロロエチレン                   | 0.01mg/L以下                                                 | 日本産業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| テトラクロロエチレン                  | 0.01mg/L以下                                                 | 日本産業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 1,3-ジクロロプロペン                | 0.002mg/L以下                                                | 日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| チウラム                        | 0.006mg/L以下                                                | 昭和46年12月環境庁告示第59号付表5に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| シマジン                        | 0.003mg/L以下                                                | 昭和46年12月環境庁告示第59号付表6の第1又は第2に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| チオベンカルブ                     | 0.02mg/L以下                                                 | 昭和46年12月環境庁告示第59号付表6の第1又は第2に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ベンゼン                        | 0.01mg/L以下                                                 | 日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| セレン                         | 0.01mg/L以下                                                 | 規格67.2、67.3又は67.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ふっ素                         | 0.8mg/L以下                                                  | 規格34.1(規格34の備考1を除く。)若しくは34.4(妨害となる物質としてハロゲン化合物又はハロゲン化合物が多量に含まれる試料を測定する場合には、蒸留試薬溶液として、水約200mlに硫酸10ml、りん酸60ml及び塩化ナトリウム10gを溶かした溶液とグルセリン250mlを混合し、水を加えて1,000mlしたものを用い、日本工業規格K0170-6の6図2注記のアルミニウム溶液のラインを追加する。)に定める方法又は規格34.1.1c)(注(2)第3文及び規格34の備考1を除く。)に定める方法(懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しないことを確認した場合にあつては、これを省略することができる。)及び昭和46年12月環境庁告示第59号付表7に掲げる方法 |
| ほう素                         | 1mg/L以下                                                    | 規格47.1、47.3又は47.4に定める方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 1,4-ジオキサン                   | 0.05mg/L以下                                                 | 昭和46年12月環境庁告示第59号付表8に掲げる方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ダイオキシン類                     | 1,000pg-TEQ/g以下であること。                                      | ソックスレー抽出及び高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

備考  
 1. 環境上の条件のうち検液中濃度に係るものにあつては付表に定める方法により検液を作成し、これを用いて測定を行うものとする。  
 2. カドミウム、鉛、六価クロム、砒(ひ)素、総水銀、セレン、ふっ素及びほう素に係る環境上の条件のうち検液中濃度に係る値にあつては、汚染土壌が地下水から離れており、かつ、原状において当該地下水中のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水1Lにつき0.003mg、0.01mg、0.05mg、0.01mg、0.0005mg、0.01mg、0.8mg及び1mgを超えていない場合には、それぞれ検液1Lにつき0.009mg、0.03mg、0.15mg、0.03mg、0.0015mg、0.03mg、2.4mg及び3mgとする。  
 3. 「検液中に検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。  
 4. 有機燐(りん)とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びEPNをいう。  
 5. 1,2-ジクロロエチレンの濃度は、日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2より測定されたシス体の濃度と日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1により測定されたトランス体の濃度の和とする。  
 6. 環境基準が達成されている場合であつて、土壌中のダイオキシン類の量が250pg-TEQ/g以上の場合には、必要な調査を実施することとする。

出典：1.「土壌の汚染に係る環境基準について」(平成3年環境庁告示第46号、最終改正 令和2年環境省告示第44号)  
 2.「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準」(平成11年環境庁告示第68号、最終改正 令和2年環境省告示第44号)

## 2) 公害の防止に関する法令に基づく規制基準

公害の防止に関する法令に基づく規制基準等の指定状況は、表 3.2-39 に示すとおりである。

悪臭防止法については屋久島町において一部指定があるが、事業実施区域周辺は指定されていない。

土壌汚染対策法に基づく要措置区域及び形質変更時届出区域については、屋久島町において指定されていない。

表 3.2-39 公害防止に係る規制の状況

| 公害防止に係る主な法令                                                                         | 規制内容                      | 状況   |          |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|------|----------|
|                                                                                     |                           | 屋久島町 | 事業実施区域周辺 |
| 騒音規制法<br>(昭和 43 年法律第 98 号)                                                          | 特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準  | ○    | ○        |
|                                                                                     | 特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準 | ○    | ○        |
|                                                                                     | 自動車騒音の限度(要請限度)            | ○    | ○        |
| 鹿児島県公害防止条例<br>(昭和 46 年鹿児島県条例第 41 号)                                                 | 特定工場等の騒音に係る規制基準           | ○    | ○        |
|                                                                                     | 特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準 | ○    | ×        |
| 振動規制法<br>(昭和 51 年法律第 64 号)                                                          | 特定工場等において発生する振動の規制に関する基準  | ×    | ×        |
|                                                                                     | 特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準 | ×    | ×        |
|                                                                                     | 道路交通振動の限度                 | ×    | ×        |
| ・悪臭防止法<br>(昭和 46 年法律第 91 号)<br>・悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定<br>(平成 24 年鹿児島県告示第 419 号) | 指定地域                      | ○    | ×        |
| 工業用水法<br>(昭和 31 年法律第 146 号)                                                         | 指定地域                      | ×    | ×        |
| 土壌汚染対策法<br>(平成 14 年法律第 53 号)                                                        | 要措置区域、形質変更時届出区域           | ×    | ×        |
| 都市計画法<br>(昭和 43 年法律第 100 号)                                                         | 用途地域による高さ制限               | ×    | ×        |

注) 指定状況において、○は存在すること、×は存在しないことを示す。

## (1) 騒音に係る規制

騒音対策については、騒音規制法(昭和43年法律第98号)や鹿児島県公害防止条例(昭和46年鹿児島県条例第41号)に基づく規制基準の遵守、指導が行われている。騒音規制法に基づく規制基準等は、特定工場等騒音、特定建設作業騒音及び自動車騒音について、それぞれ表3.2-40、表3.2-41及び表3.2-42に示すとおりに定められている。事業実施区域周辺における騒音規制区域の指定は特定工場等に係る第2種区域、特定建設作業に係る第1号区域及び自動車騒音の要請限度のb区域に指定されている。

また、鹿児島県公害防止条例に基づく特定工場及び特定建設作業において発生する騒音の規制基準は表3.2-43及び表3.2-44に示すとおりである。条例に基づく特定工場等に係る規制は全区域で適用され、特定建設作業に係る区域指定はされていない(図3.2-11参照)。

表 3.2-40 特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準

| 区域の区分 | 時間の区分 |        |         |         |
|-------|-------|--------|---------|---------|
|       | 朝     | 昼間     | 夕       | 夜間      |
|       | 6時～8時 | 8時～19時 | 19時～22時 | 22時～翌6時 |
| 第1種区域 | 45dB  | 50dB   | 45dB    | 40dB    |
| 第2種区域 | 50dB  | 60dB   | 50dB    | 45dB    |
| 第3種区域 | 60dB  | 65dB   | 60dB    | 50dB    |
| 第4種区域 | 65dB  | 70dB   | 65dB    | 55dB    |

出典:騒音規制法(昭和43年法律第98号)

備考:

- 1 昼間とは、午前七時又は八時から午後六時、七時又は八時までとし、朝とは、午前五時又は六時から午前七時又は八時までとし、夕とは、午後六時、七時又は八時から午後九時、十時又は十一時までとし、夜間とは、午後九時、十時又は十一時から翌日の午前五時又は六時までとする。
- 2 デンベルとは、計量法(平成四年法律第五十一号)別表第二に定める音圧レベルの計量単位をいう。
- 3 騒音の測定は、計量法第七十一条の条件に合格した騒音計を用いて行うものとする。この場合において、周波数補正回路はA特性を、動特性は速い動特性(F A S T)を用いることとする。
- 4 騒音の測定方法は、当分の間、日本工業規格Z八七三ー一に定める騒音レベル測定方法によるものとし、騒音の大きさの決定は、次のとおりとする。
  - 一 騒音計の指示値が変動せず、又は変動が少ない場合は、その指示値とする。
  - 二 騒音計の指示値が周期的又は間欠的に変動し、その指示値の最大値がおおむね一定の場合は、その変動ごとの指示値の最大値の平均値とする。
  - 三 騒音計の指示値が不規則かつ大幅に変動する場合は、測定値の九十パーセントレンジの上端の数値とする。
  - 四 騒音計の指示値が周期的又は間欠的に変動し、その指示値の最大値が一定でない場合は、その変動ごとの指示値の最大値の九十パーセントレンジの上端の数値とする。
- 5 前項に規定する第一種区域、第二種区域、第三種区域及び第四種区域とは、それぞれ次の各号に掲げる区域をいう。
 

|       |                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------|
| 第1種区域 | 良好な住居の環境を保全する為、特に静穏の保持を必要とする区域                                       |
| 第2種区域 | 住居の用に供されている為、静穏の保持を必要とする区域                                           |
| 第3種区域 | 住居の用にあわせて商業、工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を保全する為、騒音の発生を防止する必要がある区域 |
| 第4種区域 | 主として工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を悪化させない為、著しい騒音の発生を防止する必要がある区域    |

表 3.2-41 特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準

| 規制値・<br>規制区域等区分<br><br>特定建設作業の種類                                                     | 騒音の<br>大きさ                 | 作業ができない時間(夜間)                   |                                                | 一日あたりの<br>作業時間                       |                                    | 同一場所<br>における作業<br>時間  |                 | 日曜日<br>休日にお<br>ける作業 |
|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|---------------------------------|------------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|-----------------------|-----------------|---------------------|
|                                                                                      |                            | 第1<br>号<br>区域                   | 第2<br>号<br>区域                                  | 第1号<br>区域                            | 第2号<br>区域                          | 第1号<br>区域             | 第2号<br>区域       |                     |
| 1. くい打機 <sup>注1</sup> 、くい抜機<br>又はくい打ち機 <sup>注2</sup> を使用する作業 <sup>注3</sup>           | 85<br>デシベル                 | 午後<br>7時<br>～<br>翌日<br>午前<br>7時 | 午後<br>10時<br>～<br>翌日<br>午前<br>6時               | 10時間を<br>超えない<br>こと                  | 14時間を<br>超えない<br>こと                | 連続して6日<br>を超えないこ<br>と | 禁止              |                     |
| 2. びょう打機を使用す<br>る作業                                                                  |                            |                                 |                                                |                                      |                                    |                       |                 |                     |
| 3. さく岩機を使用する<br>作業 <sup>注4</sup>                                                     |                            |                                 |                                                |                                      |                                    |                       |                 |                     |
| 4. 空気圧縮機 <sup>注5</sup> を使用<br>する作業 <sup>注6</sup>                                     |                            |                                 |                                                |                                      |                                    |                       |                 |                     |
| 5. コンクリートプラント <sup>注7</sup> 又はアスファ<br>ルトプラント <sup>注8</sup> を使用<br>する作業 <sup>注9</sup> |                            |                                 |                                                |                                      |                                    |                       |                 |                     |
| 6. バックホウ <sup>注10</sup> を使用<br>する作業                                                  |                            |                                 |                                                |                                      |                                    |                       |                 |                     |
| 7. トラクターショベル <sup>注<br/>11</sup> を使用する作業                                             |                            |                                 |                                                |                                      |                                    |                       |                 |                     |
| 8. ブルドーザー <sup>注12</sup> を使<br>用する作業                                                 |                            |                                 |                                                |                                      |                                    |                       |                 |                     |
| 備考                                                                                   | 作業場の<br>敷地境界<br>における<br>値。 | 上の時間に作<br>業を行って<br>はな<br>らない。   | 1日において上<br>の時間を<br>超えて作<br>業を行って<br>はな<br>らない。 | 上の期間を<br>超えて作<br>業を行って<br>はな<br>らない。 | 日曜・休日<br>に作業を<br>行っては<br>な<br>らない。 |                       |                 |                     |
| 適用除外 <sup>注13</sup>                                                                  |                            | A、B、C、D、<br>E                   |                                                | A、B                                  |                                    | A、B                   | A、B、C、<br>D、E、F |                     |

注) 1. もんけんを除く。

注) 2. 圧入式くい打ち機を除く。

注) 3. くい打ち機をアースオーガーと併用する作業は除く。

注) 4. 作業地点が連続的に移動する作業にあっては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る。

注) 5. 電動機以外の原動機を用いるのものであって、その原動機の定格出力が15kW以上のものに限る。

注) 6. さく岩機の動力として使用する作業を除く。

注) 7. 混練機の混練容量が0.45m<sup>3</sup>以上のものに限る。

注) 8. 混練機の混練容量が200kg以上のものに限る。

注) 9. モルタルを製造するためにコンクリートプラントを設けて行う作業を除く。

注) 10. 一定の限度を超える大きさの騒音を発生しないものとして環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が80kW以上のものに限る。

注) 11. 一定の限度を超える大きさの騒音を発生しないものとして環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が70kW以上のものに限る。

注) 12. 一定の限度を超える大きさの騒音を発生しないものとして環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が40kW以上のものに限る。

※平成9年環境庁告示第54号の別表第1号の規定に該当する低騒音型建設機械を使用する作業は、特定建設作業から除外される(県条例の対象になる場合は別途届出が必要)。

注) 13. 表中のA～Fは次の場合をいう。

A:災害その他非常の事態のため緊急に行う必要がある場合。

B:人の生命又は身体に対する危険の防止のために行う必要がある場合。

C:鉄道又は軌道の正常な運行確保のために行う必要がある場合。

D:道路法第34条(道路の占用許可)、第35条(協議)による場合。

E:道路交通法第77条第3項(道路の占用許可)、第80条第1項(協議)による場合。

F:電気事業法施行規則第1条第2項第1号の変電所の変更の工事で特定建設作業に従事する者の生命又は身体に対する安全の確保のため電気工作物の機能を停止して日曜日、休日に行う必要がある場合。

注) 14. 単位デシベルとは、計量法に定める音圧レベルの計量単位。

出典:「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」(昭和43年厚生省・建設省告示1号)

表 3.2-42 自動車騒音の限度(要請限度)

| 区域の区分                                      | 時間の区分          |                 |
|--------------------------------------------|----------------|-----------------|
|                                            | 昼間(6:00~22:00) | 夜間(22:00~翌6:00) |
| a区域及びb区域のうち1車線を有する道路に面する区域                 | 65dB           | 55dB            |
| a区域のうち2車線以上の道路に面する区域                       | 70dB           | 65dB            |
| b区域のうち2車線以上の道路に面する区域及びc区域のうち車線を有する道路に面する区域 | 75dB           | 70dB            |

出典:騒音規制法(昭和43年法律第98号)

備考:幹線交通を担う道路に近接する区域(2車線以下の車線を有する道路は道路の敷地の境界線から15m、2車線を越える車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から20mまでの範囲)については、昼間75デシベル、夜間70デシベル

a区域:専ら住居の用に供される区域

b区域:主として住居の用に供される区域

c区域:相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される区域

表 3.2-43 鹿児島県公害防止条例に基づく特定工場等の騒音に係る規制基準

| 時間の区分                               | 基準     |
|-------------------------------------|--------|
| 昼間(午前8時から午後7時まで)                    | 65dB以下 |
| 朝(午前6時から午後8時まで)<br>夕(午後7時から午後10時まで) | 55dB以下 |
| 夜間(午後10時から翌日の午前6時まで)                | 45dB以下 |

出典:鹿児島県公害防止条例(昭和46年鹿児島県条例第41号)

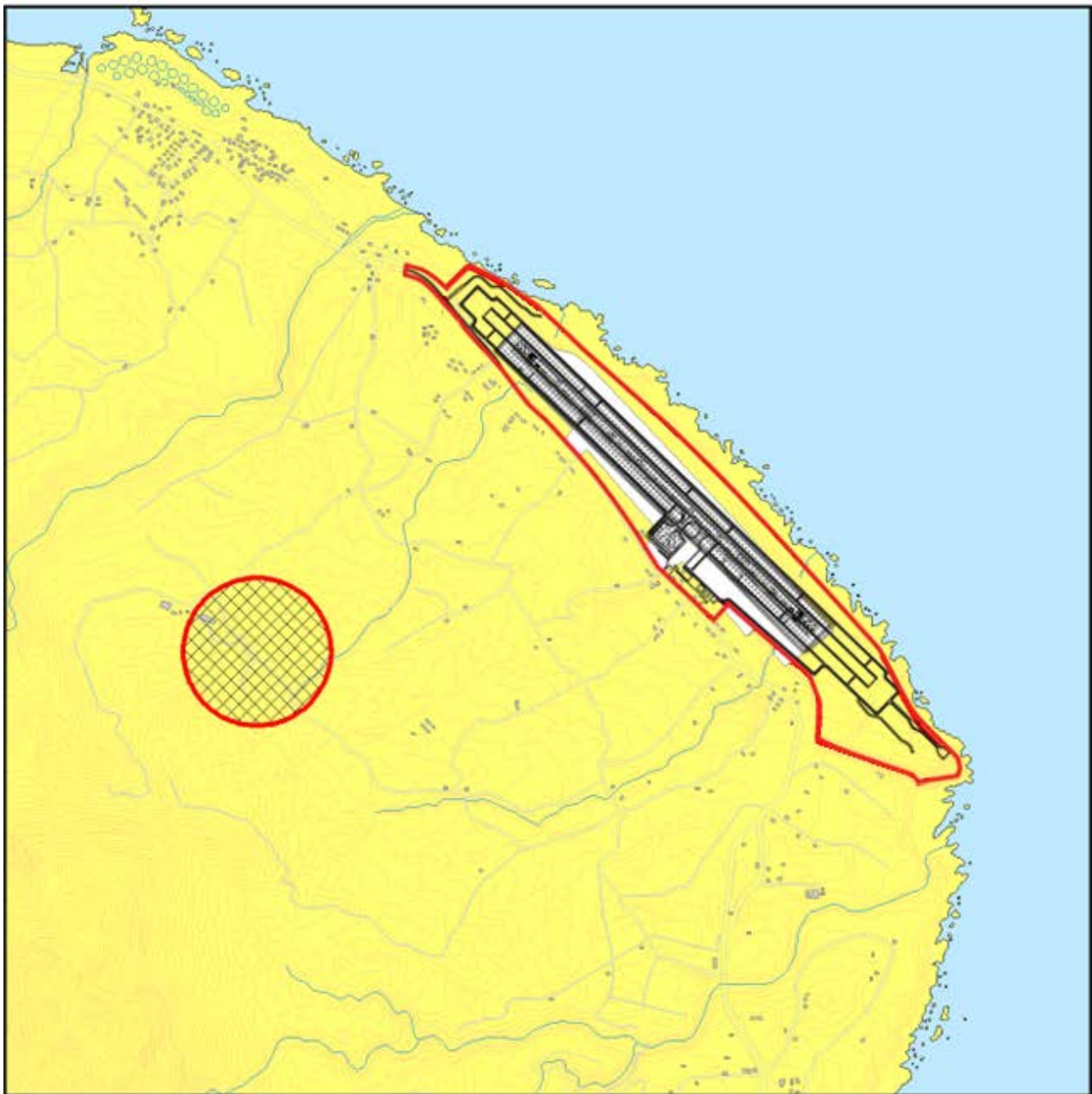
備考:騒音の測定点は、特定施設を設置する工場等の敷地の境界線上とする。

表 3.2-44 鹿児島県公害防止条例に基づく特定建設作業の騒音に係る規制基準

| 特定建設作業          |                                                                                                                                 | 1                                     | 2                | 3                | 4         | 5    |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|------------------|------------------|-----------|------|
| 規制種別<br>地域区分    |                                                                                                                                 |                                       |                  |                  |           |      |
| 基準値             | ①②                                                                                                                              | 85dB                                  | 70dB             | 65dB             | 65dB      | 65dB |
| 作業の禁止時間         | ①                                                                                                                               | 午後7時から<br>午前7時まで                      | 午後7時から<br>午前7時まで | 午後9時から<br>午前6時まで |           |      |
|                 | ②                                                                                                                               | 午後10時から午前6時まで                         |                  |                  |           |      |
| 作業時間            | ①②                                                                                                                              | 第1種地域については10時間以内、<br>第2種地域については14時間以内 |                  |                  |           |      |
| ※1日当たりの<br>作業時間 | ①                                                                                                                               | 10時間/日を超えないこと。                        |                  |                  |           |      |
|                 | ②                                                                                                                               | 14時間/日を超えないこと。                        |                  |                  |           |      |
| 作業期間            | ①                                                                                                                               | 連続して6日以内                              |                  |                  | 連続して1箇月以内 |      |
|                 | ②                                                                                                                               |                                       |                  |                  | 連続して2箇月以内 |      |
| 作業日             | ①②                                                                                                                              | 日曜日その他休日でないこと。                        |                  |                  |           |      |
| 番号              | 種類                                                                                                                              |                                       |                  |                  |           |      |
| 1               | くい打機(もんけんを除く。)、くい抜機又はくい打くい抜機(圧入式くい打くい抜機を除く。)を使用する作業(くい打機をアースオーガーと併用する作業を除く。)                                                    |                                       |                  |                  |           |      |
| 2               | びょう打機を使用する作業                                                                                                                    |                                       |                  |                  |           |      |
| 3               | さく岩機を使用する作業(作業地点が連続的に移動する作業にあつては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50メートルを超えない作業に限る。)                                                      |                                       |                  |                  |           |      |
| 4               | 空気圧縮機(電動機以外の原動機を用いるものであつて、その原動機の定格出力が15キロワット以上のものに限る。)を使用する作業(さく岩機の動力として使用する作業を除く。)                                             |                                       |                  |                  |           |      |
| 5               | コンクリートプラント(混練機の混練容量が0.45立方メートル以上のものに限る。 )又はアスファルトプラント(混練機の混練重量が200キログラム以上のものに限る。 )を設けて行う作業(モルタルを製造するためにコンクリートプラントを設けて行う作業を除く。 ) |                                       |                  |                  |           |      |

備考

- 1 第1種地域とは、都市計画法第8条第1項第1号に規定する第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、田園住居地域、近隣商業地域、商業地域及び準工業地域並びに都市計画法による地域地区の定めのない地域をいう。
- 2 第2種地域とは、都市計画法第8条第1項第1号に規定する工業地域及び第一種住居地域等に隣接する工業専用地域のうち、第一種住居地域等の周囲50メートル以内の地域をいう。
- 3 騒音の測定点は、作業場の敷地の境界線から30メートルの地点とする。
- 4～6 中略
- 7 次の各号に掲げる項目について、それぞれ当該各号に定める場合のいずれかに該当するときは、当該項目について定めた規制基準は、適用しない。
  - (1) 作業の禁止時間
    - ア 災害その他の非常の事態の発生により、当該特定建設作業を緊急に行う必要がある場合
    - イ 人の生命又は身体に対する危険を防止するため、特に当該特定建設作業を行う必要がある場合
    - ウ 鉄道又は軌道の正常な運行を確保するため、特に当該特定建設作業を行う必要がある場合
    - エ 道路法(昭和27年法律第180号)第34条の規定に基づき、道路の占用の許可に当該特定建設作業を夜間に行うべき旨の条件が付された場合及び同法第35条の規定に基づく協議において当該特定建設作業を夜間に行うべきこととされた場合
    - オ 道路交通法(昭和35年法律第105号)第77条第3項の規定に基づき、道路の使用の許可に当該特定建設作業を夜間に行うべき旨の条件が付された場合及び同法第80条第1項の規定に基づく協議において、当該特定建設作業を夜間に行うべきこととされた場合
  - (2) 1日の作業時間及び作業期間
    - ア (1)のアに掲げる場合
    - イ (1)のイに掲げる場合
  - (3) 日曜日又は休日の作業
    - ア (1)のアに掲げる場合
    - イ (1)のイに掲げる場合
    - ウ (1)のウに掲げる場合
    - エ 電気事業法施行規則(平成7年通商産業省令第77号)第1条第2項第1号に規定する変電所の変更の工事として行う特定建設作業であつて、当該特定建設作業を行う場所に近接する電気工作物の機能を停止させて行わなければ、当該特定建設作業に従事する者の生命又は身体に対する安全が確保できないため、特に当該特定建設作業を行う必要がある場合
    - オ 道路法第34条の規定に基づき、道路の占用の許可に当該特定建設作業を日曜日又は休日に行うべき旨の条件が付された場合及び同法第35条の規定に基づく協議において、当該特定建設作業を日曜日又は休日に行うべきこととされた場合
    - カ 道路交通法第77条第3項の規定に基づき、道路の使用の許可に当該特定建設作業を日曜日又は休日に行うべき旨の条件が付された場合、及び同法第80条第1項の規定に基づく協議において、当該特定建設作業を日曜日又は休日に行うべきこととされた場合



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 騒音規制区域

0 0.5 1 km

1:25,000



|        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 特定工場等  | : 騒音規制法: 第2種区域, 鹿児島県公害防止条例: 全区域    |
| 特定建設作業 | : 騒音規制法: 第1号区域, 鹿児島県公害防止条例: 規制区域なし |
| 自動車騒音  | : 騒音規制法: b区域                       |

図 3.2-11 騒音規制区域の状況

## (2) 振動に係る規制

「振動規制法」(昭和 51 年法律第 64 号、最終改正平成 23 年法律第 122 号)により、振動を防止する必要があるとして指定されている地域内における工場・事業場の事業活動に伴う振動及び建設工事に伴う振動について規制が定められているとともに、道路交通振動については措置を要請する限度が定められている。表 3.2-45 及び表 3.2-46 に振動の規制に関する基準を示す。

なお、事業実施区域周辺において振動規制法による規制地域の区域指定はなされていない。

表 3.2-45 特定工場等において発生する振動の規制に関する基準

| 区域の区分 | 基準値            |                 |
|-------|----------------|-----------------|
|       | 昼間(8:00~19:00) | 夜間(19:00~翌8:00) |
| 第1種区域 | 60dB以下         | 55dB以下          |
| 第2種区域 | 65dB以下         | 60dB以下          |

出典:「振動規制法」(昭和 51 年法律第 64 号、最終改正平成 23 年法律第 122 号)

注) 1. 基準値は、工場等の敷地境界線上での大きさ。

注) 2. 第1種区域及び第2種区域とは、それぞれ次のとおりである。

- (1) 第1種区域 良好な住居の環境を保全する為、特に静穏の保持を必要とする区域及び住居の用に供されている為、静穏の保持を必要とする区域
- (2) 第2種区域 住居の用に併せて、商業、工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民生活環境を保全する為、振動の発生を防止する必要がある区域及び主として工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を悪化させない為、著しい振動の発生を防止する必要がある区域

表 3.2-46 特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準

### 1 特定建設作業

| 特定建設作業名                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------|
| ① くい打機(もんけん及び圧入式くい打機を除く)、くい抜機(油圧式くい抜機を除く)又はくい打くい抜機(圧入式くい打くい抜機を除く)を使用する作業               |
| ② 鋼球を使用して建築物その他の工作物を破壊する作業                                                             |
| ③ 舗装版破碎機を使用する作業(作業地点が連続的に移動する作業にあつては、1日における当該作業に係る二地点間の最大距離が50メートルを超えない作業に限る)          |
| ④ ブレーカ(手持式のものを除く)を使用する作業(作業地点が連続的に移動する作業にあつては、1日における当該作業に係る二地点間の最大距離が50メートルを超えない作業に限る) |

出典:「振動規制法」(昭和 51 年法律第 64 号、最終改正平成 23 年法律第 122 号)

注) 当該作業がその作業を開始した日に終わるものは除く。

### 2 規制基準

| 規制項目   | 基準     |            |
|--------|--------|------------|
| 基準値    | 75dB   |            |
| 作業禁止時間 | 第1号区域  | 午後7時~午前7時  |
|        | 第2号区域  | 午後10時~午前6時 |
| 最大作業時間 | 第1号区域  | 10時間/日     |
|        | 第2号区域  | 14時間/日     |
| 最大作業日数 | 連続6日   |            |
| 作業禁止日  | 日曜日、休日 |            |

注) 振動の基準値は、作業の場所の敷地の境界線の値である。



(備考)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1号区域 | ① 特定工場等に係る区域区分のうち、第1種区域及び第2種区域のうち原則として都市計画法に基づく工業地域を除く区域<br>② 上記工業地域のうち、次に掲げる施設の敷地の周囲80メートル以内の区域<br>ア 学校教育法第1条に規定する学校<br>イ 児童福祉法第7条第1項に規定する保育所<br>ウ 医療法第1条の5第1項に規定する病院又は同条第2項に規定する診療所<br>のうち患者を入院させる為の施設を有するもの<br>エ 図書館法第2条第1項に規定する図書館<br>オ 老人福祉法第5条の3に規定する特別養護老人ホーム |
| 第2号区域 | 特定工場等に係る区域のうち、上記第1号区域以外の区域                                                                                                                                                                                                                                           |

「振動規制法」(昭和51年法律第64号、最終改正平成23年法律第122号)では、指定地域内における道路交通振動が表3.2-47に示す限度を超えることにより、道路周辺生活環境が著しく損なわれると認める時には、市町村長は道路管理者に対し、当該道路の道路部分につき道路交通振動の防止の為の舗装、維持又は修繕の措置をとるべきことを要請し、又は都道府県公安委員会に対し、道路交通法の規定による措置(交通規制)を執るべきことを要請するものと定められている。

なお、事業実施区域周辺において振動規制法による道路交通振動の限度に係る区域指定はなされていない。

表 3.2-47 道路交通振動の限度

| 区域の区分 | 時間の区分          |                 |
|-------|----------------|-----------------|
|       | 昼間(8:00~19:00) | 夜間(19:00~翌8:00) |
| 第1種区域 | 65dB           | 60dB            |
| 第2種区域 | 70dB           | 65dB            |

出典:「振動規制法」(昭和51年法律第64号、最終改正平成23年法律第122号)

注) 1. 第1種区域及び第2種区域とは、特定工場等に係る規制基準の区域と同一である。

注) 2. 振動の測定場所は、道路の敷地の境界線とする。

### (3) 悪臭に係る規制

「悪臭防止法」(昭和46年法律第91号)は、県知事又は市町長が規制地域の指定及び規制基準の設定を行った地域において適用され、特定悪臭物質又は臭気指数のいずれかの規制基準によって規制するものである。

特定悪臭物質により規制されている地域では、規制地域内において法に定める特定悪臭物質のいずれかを発生させる工場・事業場の全てが規制の対象となる。特定悪臭物質としては、アンモニア等22物質が指定されており、表3.2-48に示すとおり、敷地境界線、気体排出口及び排出水中の規制基準が設定されている。

また、鹿児島県公害防止条例(昭和46年鹿児島県条例第41号)では悪臭に係る特定施設、施設の構造並びにその使用及び管理に関する規制基準を表3.2-49に示すとおり定めている。なお、事業実施区域周辺において悪臭防止法による規制地域の区域指定はなされていない。

表 3.2-48 悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準

①敷地境界線における規制基準(物質濃度) (単位:ppm)

| 特定悪臭物質の種類     | 指定区域   |       |
|---------------|--------|-------|
|               | A 地域   | B 地域  |
| アンモニア         | 1      | 2     |
| メチルメルカプタン     | 0.002  | 0.004 |
| 硫化水素          | 0.02   | 0.06  |
| 硫化メチル         | 0.01   | 0.05  |
| 二硫化メチル        | 0.009  | 0.03  |
| トリメチルアミン      | 0.005  | 0.02  |
| アセトアルデヒド      | 0.05   | 0.1   |
| プロピオンアルデヒド    | 0.05   | 0.1   |
| ノルマルブチルアルデヒド  | 0.009  | 0.03  |
| イソブチルアルデヒド    | 0.02   | 0.07  |
| ノルマルバレールアルデヒド | 0.009  | 0.02  |
| イソバレールアルデヒド   | 0.003  | 0.006 |
| イソブタノール       | 0.9    | 4     |
| 酢酸エチル         | 3      | 7     |
| メチルイソブチルケトン   | 1      | 3     |
| トルエン          | 10     | 30    |
| スチレン          | 0.4    | 0.8   |
| キシレン          | 1      | 2     |
| プロピオン酸        | 0.03   | 0.07  |
| ノルマル酪酸        | 0.001  | 0.002 |
| ノルマル吉草酸       | 0.0009 | 0.002 |
| イソ吉草酸         | 0.001  | 0.004 |

出典:悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定(平成24年鹿児島県告示第419号)

②気体排出口における規制基準(物質濃度)

特定悪臭物質(メチルメルカプタン、硫化メチル、二硫化メチル、アセトアルデヒド、スチレン、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸及びイソ吉草酸を除く。)の種類ごとに①に掲げる規制基準の値を基礎として悪臭防止法施行規則(昭和47年総理府令第39号)第3条に定める方法により算出して得た流量

## ③排出水中における規制基準(物質濃度)

(単位:mg/L)

| 特定悪臭物質の種類 | 排出水の量の区分             | 指定地域  |       |
|-----------|----------------------|-------|-------|
|           |                      | A 地域  | B 地域  |
| メチルメルカプタン | $Q \leq 0.001$       | 0.03  | 0.06  |
|           | $0.001 < Q \leq 0.1$ | 0.007 | 0.01  |
|           | $0.1 < Q$            | 0.002 | 0.003 |
| 硫化水素      | $Q \leq 0.001$       | 0.1   | 0.3   |
|           | $0.001 < Q \leq 0.1$ | 0.02  | 0.07  |
|           | $0.1 < Q$            | 0.005 | 0.02  |
| 硫化メチル     | $Q \leq 0.001$       | 0.3   | 2     |
|           | $0.001 < Q \leq 0.1$ | 0.07  | 0.3   |
|           | $0.1 < Q$            | 0.01  | 0.07  |
| 二硫化メチル    | $Q \leq 0.001$       | 0.6   | 2     |
|           | $0.001 < Q \leq 0.1$ | 0.1   | 0.4   |
|           | $0.1 < Q$            | 0.03  | 0.09  |

注) Q は工場その他の事業場から敷地外に排出される排出水の量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ ) を表す。

出典: 悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定(平成 24 年鹿児島県告示第 419 号)

表 3.2-49 悪臭に係る特定施設及び規制基準(鹿児島県公害防止条例)

| 番号 | 用途区分                                        | 施設名       | 規模     | 構造等に関する基準                                                                                                                                               |
|----|---------------------------------------------|-----------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 獣畜、魚介類又は鳥類の臓器、骨皮、羽毛等を原料とする飼料又は肥料の製造の用に供するもの | (1)原料置場   | すべてのもの | 次の各号に該当すること。<br>(1)工場等は、悪臭が漏れにくい構造の建物とすること。<br>(2)原材料及び製品等は、悪臭が漏れにくい密閉された施設に貯蔵すること。<br>(3)施設は、密閉構造とし、燃焼法、吸収法若しくは洗浄法又はこれと同等以上の脱臭効果を有する方法で処理すること。         |
|    |                                             | (2)蒸解施設   | すべてのもの |                                                                                                                                                         |
|    |                                             | (3)乾燥施設   | すべてのもの |                                                                                                                                                         |
| 2  | 菌体かす又はでん粉かすを原料として飼料又は肥料等の製造の用に供するもの         | (1)原料置場   | すべてのもの |                                                                                                                                                         |
|    |                                             | (2)乾燥施設   | すべてのもの |                                                                                                                                                         |
| 3  | パルプ又は紙製造の用に供するもの                            | (1)蒸解がま   | すべてのもの | 次の各号に該当すること。<br>(1)工場等は、悪臭が漏れにくい構造の建物とすること。<br>(2)施設は、密閉構造とし、燃焼法若しくは洗浄法又はこれと同等以上の脱臭効果を有する方法で処理すること。                                                     |
|    |                                             | (2)薬液回収施設 | すべてのもの |                                                                                                                                                         |
| 4  | 鶏ふん乾燥を業とする者が用いるもの                           | 鶏ふん乾燥施設   | すべてのもの | 次の各号に該当すること。<br>(1)工場等は、悪臭が漏れにくい構造の建物とすること。<br>(2)原材料及び製品等は悪臭の漏れにくい容器に収納し、又はカバーで覆う等の措置を講ずること。<br>(3)施設は、密閉構造とし、燃焼法若しくは土壌酸化法又はこれと同等以上の脱臭効果を有する方法で処理すること。 |
| 5  | でん粉製造の用に供するもの                               | かすだめ      | すべてのもの | 次の各号に該当すること。<br>(1)かすが外部に流れ出ないように、囲いを設けること。<br>(2)悪臭が外部に漏れないように、カバーで覆う等の措置を講ずること。                                                                       |

出典:悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定(平成24年鹿児島県告示第419号)

#### (4) 水質汚濁に係る規制

##### ア. 工場排水等に対する規制

水質汚濁防止法(昭和45年法律第138号)では、特定施設を設置する工場・事業場からの公共用水域への排水について排水基準(一律排水基準)が定められている。水質汚濁防止法に基づく排水基準を表3.2-50(1)～(2)に示す。なお、鹿児島県公害防止条例(昭和46年鹿児島県条例第41号)に基づく排水基準も同値である。

表 3.2-50(1) 水質汚濁防止法に基づく有害物質に係る排水基準

| 有害物質の種類                                                                                                                                                                        | 許容限度                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| カドミウム及びその化合物                                                                                                                                                                   | カドミウム 0.03mg/L                               |
| シアン化合物                                                                                                                                                                         | シアン 1mg/L                                    |
| 有機燐(りん)化合物(パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びEPNに限る)                                                                                                                                     | 1mg/L                                        |
| 鉛及びその化合物                                                                                                                                                                       | 鉛 0.1mg/L                                    |
| 六価クロム化合物                                                                                                                                                                       | 六価クロム 0.5mg/L                                |
| 砒(ひ)素及びその化合物                                                                                                                                                                   | 砒(ひ)素 0.1mg/L                                |
| 水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物                                                                                                                                                            | 水銀 0.005mg/L                                 |
| アルキル水銀化合物                                                                                                                                                                      | 検出されないこと。                                    |
| ポリ塩化ビフェニル                                                                                                                                                                      | 0.003mg/L                                    |
| トリクロロエチレン                                                                                                                                                                      | 0.1mg/L                                      |
| テトラクロロエチレン                                                                                                                                                                     | 0.1mg/L                                      |
| ジクロロメタン                                                                                                                                                                        | 0.2mg/L                                      |
| 四塩化炭素                                                                                                                                                                          | 0.02mg/L                                     |
| 1,2-ジクロロエタン                                                                                                                                                                    | 0.04mg/L                                     |
| 1,1-ジクロロエチレン                                                                                                                                                                   | 1mg/L                                        |
| シス-1,2-ジクロロエチレン                                                                                                                                                                | 0.4mg/L                                      |
| 1,1,1-トリクロロエタン                                                                                                                                                                 | 3mg/L                                        |
| 1,1,2-トリクロロエタン                                                                                                                                                                 | 0.06mg/L                                     |
| 1,3-ジクロロプロペン                                                                                                                                                                   | 0.02mg/L                                     |
| チウラム                                                                                                                                                                           | 0.06mg/L                                     |
| シマジン                                                                                                                                                                           | 0.03mg/L                                     |
| チオベンカルブ                                                                                                                                                                        | 0.2mg/L                                      |
| ベンゼン                                                                                                                                                                           | 0.1mg/L                                      |
| セレン及びその化合物                                                                                                                                                                     | セレン 0.1mg/L                                  |
| ほう素及びその化合物                                                                                                                                                                     | 海域以外 ほう素 10mg/L<br>海域 ほう素 230mg/L            |
| ふっ素及びその化合物                                                                                                                                                                     | 海域以外 ふっ素 8mg/L<br>海域 ふっ素 15mg/L              |
| アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物                                                                                                                                                  | アンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量 100mg/L |
| 1,4-ジオキサン                                                                                                                                                                      | 0.5mg/L                                      |
| 備考                                                                                                                                                                             |                                              |
| 1.「検出されないこと。」とは、第2条の規定に基づき環境大臣が定める方法により排水の汚染状態を検定した場合において、その結果が当該検定方法の定量限界を下回ることをいう。                                                                                           |                                              |
| 2.砒(ひ)素及びその化合物についての排水基準は、水質汚濁防止法施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令(昭和49年政令第363号)の施行の際現にゆう出している温泉(温泉法(昭和23年法律第125号)第2条第1項に規定するものをいう。以下同じ。)を利用する旅館業に属する事業場に係る排水については、当分の間、適用しない。 |                                              |

出典:「排水基準を定める省令」(昭和46年総理府令第35号、最終改正 令和元年環境省令第15号)

表 3.2-50(2) 水質汚濁防止法に基づく生活環境に係る排水基準

| 項目                              | 許容限度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 水素イオン濃度(pH)<br>(水素指数)           | 海域以外 5.8以上8.6以下<br>海域 5.0以上9.0以下                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 生物化学的酸素要求量(BOD)                 | 160mg/L(日間平均120mg/L)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 化学的酸素要求量(COD)                   | 160mg/L(日間平均120mg/L)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 浮遊物質(SS)                        | 200mg/L(日間平均150mg/L)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ノルマルヘキササン抽出物質含有量<br>(鉱油類含有量)    | 5mg/L                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ノルマルヘキササン抽出物質含有量<br>(動植物油脂類含有量) | 30mg/L                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| フェノール類含有量                       | 5mg/L                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 銅含有量                            | 3mg/L                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 亜鉛含有量                           | 2mg/L                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 溶解性鉄含有量                         | 10mg/L                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 溶解性マンガン含有量                      | 10mg/L                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| クロム含有量                          | 2mg/L                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 大腸菌群数                           | 日間平均3,000個/cm <sup>3</sup>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 窒素含有量                           | 120mg/L(日間平均60mg/L)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 燐(りん)含有量                        | 16mg/L(日間平均8mg/L)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 備考                              | <p>1. 「日間平均」による許容限度は、一日の排出水の平均的な汚染状態について定めたものである。</p> <p>2. この表に掲げる排水基準は、一日当たりの平均的な排出水の量が五〇立方メートル以上である工場又は事業場に係る排水水について適用する。</p> <p>3. 水素イオン濃度及び溶解性鉄含有量についての排水基準は、硫黄鉱業(硫黄と共存する硫化鉄鉱を掘採する鉱業を含む。)に属する工場又は事業場に係る排水水については適用しない。</p> <p>4. 水素イオン濃度、銅含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量及びクロム含有量についての排水基準は、水質汚濁防止法施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令の施行の際現にゆう出している温泉を利用する旅館業に属する事業場に係る排水水については、当分の間、適用しない。</p> <p>5. 生物化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼以外の公共用水域に排出される排水水に限って適用し、化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼に排出される排水水に限って適用する。</p> <p>6. 窒素含有量についての排水基準は、窒素が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域(湖沼であって水の塩素イオン含有量が一リットルにつき九、〇〇〇ミリグラムを超えるものを含む。以下同じ。)として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排水水に限って適用する。</p> <p>7. 燐(りん)含有量についての排水基準は、燐(りん)が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排水水に限って適用する。</p> |

出典:「排水基準を定める省令」(昭和46年総理府令第35号、最終改正 令和元年環境省令第15号)

### (5) 地下水の採取に係る規制

事業実施区域周辺は「工業用水法」(昭和31年法律第146号)及び「建物用地下水の採取の規制に関する法律」(昭和37年法律第100号)による地下水採取を規制されている地域はない。

### 3) 自然環境法令等による指定状況

#### (1) 自然公園、自然環境保全地域

事業実施区域周辺においては、「自然公園法」(昭和 32 年法律第 161 号)に基づく自然公園等の指定がされており、その位置は図 3.2-12 に示すとおりである。

また、屋久島国立公園区域の地種区域別面積を表 3.2-51 (1) に示す。なお屋久島国立公園における公園面積(海域を含む)は 24,859ha である。

なお、「自然環境保全法」(昭和 47 年法律第 85 号)に基づく自然環境保全地域として、「屋久島原生自然環境保全地域」が指定されている(表 3.2-51 (2) 参照)。

その位置は、事業実施区域から南西約 16 km の山岳部のヤクスギを主とした原生林の地域に位置する。

表 3.2-51 (1) 屋久島国立公園区域の地種区域別面積 (ha)

|       | 特別地域       |       |       |        | 普通地域 | 公園面積<br>(陸域のみ) |
|-------|------------|-------|-------|--------|------|----------------|
|       | 特別<br>保護地区 | 第 1 種 | 第 2 種 | 第 3 種  |      |                |
| 屋久島地域 | 7,669      | 3,300 | 2,516 | 11,016 | 65   | 24,566         |

出典:環境省ウェブサイト「屋久島国立公園」  
<<http://www.env.go.jp/park/yakushima/intro/index.html>>

表 3.2-52 (2) 屋久島原生自然環境保全地域の面積 (ha)

|               | 原生自然環境保全地域 |        | 面積<br>(陸域のみ) |
|---------------|------------|--------|--------------|
|               |            | 立入制限地区 |              |
| 屋久島原生自然環境保全地域 | 1,219      | 0      | 1,219        |

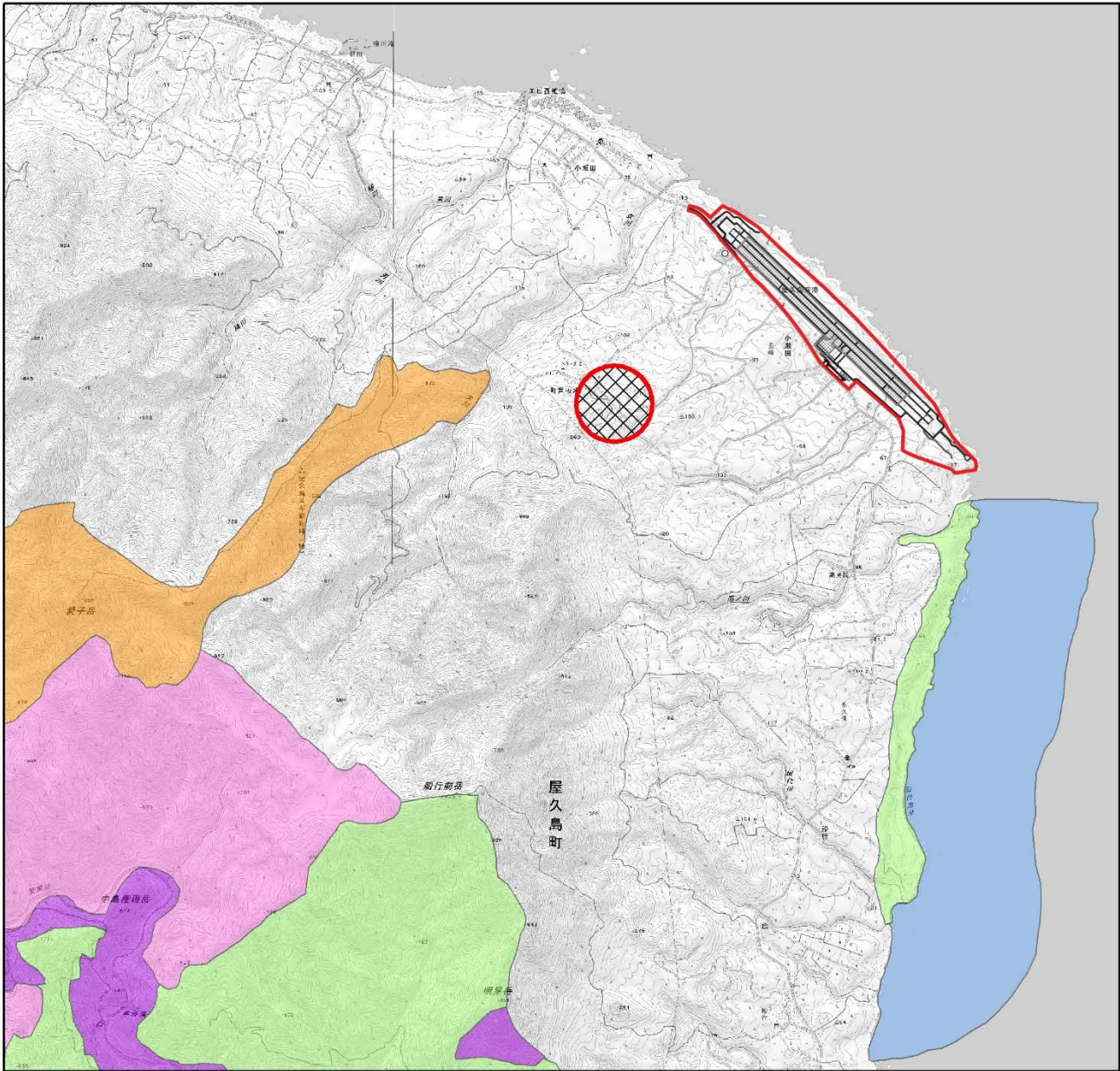
出典:環境省ウェブサイト「屋久島原生自然環境保全地域」  
<[https://www.env.go.jp/nature/hozen/yakushima/outline\\_yakushima.html](https://www.env.go.jp/nature/hozen/yakushima/outline_yakushima.html)>

#### (2) 鳥獣保護区等

事業実施区域周辺において、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成 14 年法律第 88 号)に基づく鳥獣保護区等は図 3.2-13 に示すとおりである。

#### (3) 保安林

事業実施区域周辺においては、「森林法」(昭和 26 年法律第 249 号)に基づく保安林の指定がされており、その位置は図 3.2-14 に示すとおりである。



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 普通地域
- 特別保護地区
- 第1種特別地域
- 第2種特別地域
- 第3種特別地域

0 0.5 1 2 km

1:50,000



出典：環境省ウェブページ「屋久島国立公園」  
<http://www.env.go.jp/park/yakushima/intro/index.html>

図 3.2-12 自然公園法に基づく国立公園の指定状況